

幼 兒 教 育



第 四 卷 三 月 號 第 三 號

東 京 女 子 高 等 師 範 學 校 內

日 本 幼 稚 園 協 會

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編 (再版)

觀察の實際

菊判 一三〇頁

定價 金壹圓

送料 東京 金六錢
市內 金六錢
其他 金九錢

○觀察の實際については何か参考したいといふ御希望は皆様から常に伺ふ所、本書はその爲に最も適切親切なる書である。

日本幼稚園協會編

幼稚園談話集 (四版)

東京女子高等師範學校附屬幼稚園編

系統的保育案の實際 (四版)

幼児の教育 (月刊)

菊版 三五〇頁 定價 金壹圓五拾錢
送料 市内 金六錢
地方 北海道・臺灣 金拾五錢
樺太・朝鮮・滿洲

定價 金壹圓
送料 金六錢

一ヶ月 金參拾五錢 送料 金一錢
一ヶ年 金四圓貳拾錢 送料 共

生徒募集

一定員 七拾名

一出願期限 三月末日迄

規則並ニ入學案内ハ三錢切手封入申込マレタシ

東京市品川區大井原町五二〇八(省線大井町驛ヨリ城南バ
スニテ原停留場下車二分)

東京昭和保姆養成所

所 長 土 川 五 郎

顧問 兼 講師 倉 橋 惣 三
東京女子高等師範教授

生徒募集

△定員 六十名

△保姆無試験檢定

△締切 三月二十日

△寄宿舎完備

佛教保育協會

中野保姆養成所

東京市中野區宮前町 電話中野五八七〇番

△帝都ノ名刹中野寶仙寺境内ニ同寺經營ノ中野高等女學校並
感應幼稚園ト共ニ併設セラレ環境ノ清澄ト設備ノ完備セル
ハ本所ノ誇リデアル

△交通ハ省線新宿驛ヨリ五分

△學則請求要三錢

平安女學院保育科

修業年限二箇年、保姆及母として

の學習、實習、研究

(入學案内要三錢切手)

保姆・小學教員無試驗檢定資格有

第一學年 參拾名募集

出願受付 自一月八日至四月四日

京都市上京區下立賣通烏丸西入

平安女學院

なほ英文科・家政科・家庭科・豫科・平安幼稚園・平安高等女學校あり

石 森 延 男 著

東京市神田區神保町三丁目一九
大阪住吉區北田邊町三〇六

横 山 書 店

幼な子へのお話

四六版二百五十頁
色刷美術挿繪八葉
裝 禎 瀟 洒
Y. 1.60

お母さんや幼児の先生方は、お子さんたちから、お話をせがまれないでせうか。お話がなくつてお困りにならないかしら。そんな時には、どうすればいいのか、どうすればお話が作れるやうになるのか。この本は、そのことについてわかりやすく丁寧に書いてあるそれは美しい手引書であります。

推薦の言葉

倉橋惣三先生

お母さんにお話をきかせていただくことは、子ごもの大きな幸福である。しかもその幸福は、お母さんの方に、もつと大きいかもしれない。この幸福に氣がねしてゐるお母さんが必ずしも少くない。「お話をしらないから。」そんなことに氣おくれしては、わが子の求める幸福を與へかねたり自分の幸福を我さうけかねたりしてゐる。「お話なんてそんなにむづかしいものではありませんよ。」といひながら、にこやかに相談相手にならうとしてゐるのがこの本である。本書が、お母さん方の幸福を増すことを疑はないと共に、幼児の先生にも、姉さんにも、ぜひ薦めたいと思ふのは私ばかりではあるまい。

靜寬院宮幼時の御姿に擬せ「鏡様」人形の頒布



「女子ノ身ヲ以テ國難ヲ匡濟スルノ用ニ供スルコトヲ得バ水火ノ中ニ投ズルモ辭セス」ニ悲壯なる決意を以て、徳川十四代將軍家茂公に御降嫁遊ばされたる和宮様、後の靜寬院宮様こそは、洵に我が殉國犠牲の象徴にして、又その貞烈淑正の令徳は萬代婦道の典型として國民齊しく仰ぎ奉らねばならぬことであります。

今回本會に於ては宮様御婦徳宣揚の一助として「鏡様」人形を廣く同好の士に頒布することにいたしました。此の御人形の原型は宮様の側近者を出せる正六位法有季家所藏にかゝる由緒深き御人形にして、人形製作の大家山田徳兵衛氏が謹製したるものであります。尙此の御人形の原型は國定教科書小學國語讀本卷十二にも登載され宮様の尊容を偲び奉る史料の確實なるものはこれ以外にはないのであります。又本人形の添書中には宮様の御眞蹟の對鏡の御歌を奉載し、題字は御宗家徳川公夫人泰子の直筆にかゝるものであります。冀くば江湖の諸賢の御贊同により廣く一般家庭・幼稚園・小學校・女學校等に奉安されんことをおすゝめ致します。

「鏡様人形」

推薦

倉橋惣三

幼稚園の雛棚へ「鏡様」を加へたいものです。飾るには一番上の段、親王様のお近くの方へならべて飾るのが正式だと、その道の人に教へて貰ひました。昨年も澤山御希望がありました。皆さんの幼稚園にも今年からは是非、お薦めします。

御身長 鬚先まで 曲尺六寸五分
黒塗臺及び桐箱付

金拾八圓也

送料

東京市内 二十二錢
内地一般 二十一錢

樺太・臺灣 六十二錢
朝鮮・滿洲國

但し代金引替の場合 十八錢増

東京市芝區芝公園増上寺中

頒布先 財團 靜寬院宮奉讚會

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内

取次所 日本幼稚園協會

電話 大塚三一四一一番
振替口座東京一七二六六番

倉橋惣三編 (新刊)

新體幼稚園唱歌

四六倍判
定價(送料共)
金七拾錢

目 日本国旗日の丸の旗
次 道 ぶ し ん
倉橋惣三 作曲
井上武惣士 作曲

いうびんやさん 倉橋惣三 作曲
弘田龍太郎 作曲
渡し場の船頭さん 倉橋惣三 作曲
中山晋平 作曲
火消しのなちさん 倉橋惣三 作曲
小林つや江 作曲

日本幼稚園協會編 (新刊)

幼稚園新唱歌

四六倍判
定價(送料共)
金五拾錢

目 村 耕 作
次 雨 杉 山 米 子 作
小 松 耕 輔 作 詞
小 松 耕 輔 作 曲

ほ た る 青山綾子 作曲
小松耕輔 作曲
ふ し ん 場 氏原銀 作曲
小松耕輔 作曲

〇この二つの新刊幼稚園唱歌集は、幼稚園の爲に新しい歌曲を求めて居らるゝ方々に必ずや充分歓迎せらるゝことを期待してゐる。

生徒募集

一定員 七拾名

一出願期限 三月末日迄

規則並ニ入學案内ハ三錢切手封入申込マレタシ

東京市品川區大井原町五二〇八(省線大井町驛ヨリ城南バ
スニテ原停留場下車二分)

東京昭和保姆養成所

所 長 土 川 五 郎

顧問兼講師
東京女子高等師範教授 倉 橋 惣 三

生徒募集

△定員 六十名

△保姆無試験檢定

△締切 三月二十日

△寄宿舎完備

佛教保育協會

中野保姆養成所

東京市中野區宮前町 電話中野五八七〇番

△帝都ノ名刹中野寶仙寺境内ニ同寺經營ノ中野高等女學校並
感應幼稚園ト共ニ併設セラレ環境ノ清澄ト設備ノ完備セル
ハ本所ノ誇リデアル

△交通ハ省線新宿驛ヨリ五分

△學則請求要三錢

平安女學院保育科

修業年限二箇年、保姆及母として

の學習、實習、研究

(入學案内要三錢切手)

保姆・小學教員無試験檢定資格有

第一學年 參拾名募集

出願受付 自一月八日至四月四日

京都市上京區下立賣通烏丸西入

平安女學院

なほ英文科・家政科・家庭科・豫科・平安幼稚園・平安高等女學校あり

石 森 延 男 著

東京市神田區神保町三丁目一九
大阪住吉區北田邊町三〇六

横 山 書 店

幼な子へのお話

四六版二百五十頁
色刷美術挿繪八葉
裝 禎 瀟 洒
Y. 1.60

お母さんや幼児の先生方は、お子さんたちから、お話をせがまれないでせうか。お話がなくつてお困りにならないかしら。そんな時には、どうすればいいのか、どうすればお話が作れるやうになるのか。この本は、そのことについてわかりやすく丁寧に書いてあるそれは美しい手引書であります。

推薦の言葉

倉橋惣三先生

お母さんにお話をきかせていただくことは、子ごもの大きな幸福である。しかもその幸福は、お母さんの方に、もつと大きいかもしれない。この幸福に氣がねしてゐるお母さんが必ずしも少くない。「お話をしらないから。」そんなことに氣おくれしては、わが子の求める幸福を與へかねたり自分の幸福を我さうけかねたりしてゐる。「お話なんてそんなにむづかしいものではありませんよ。」といひながら、にこやかに相談相手にならうとしてゐるのがこの本である。本書が、お母さん方の幸福を増すことを疑はないと共に、幼児の先生にも、姉さんにも、ぜひ薦めたいと思ふのは私ばかりではあるまい。

靜寬院宮幼時の御姿に擬せ「鏡様」人形の頒布



「女子ノ身ヲ以テ國難ヲ匡濟スルノ用ニ供スルコトヲ得バ水火ノ中ニ投ズルモ辭セス」ニ悲壯なる決意を以て、徳川十四代將軍家茂公に御降嫁遊ばされたる和宮様、後の靜寬院宮様こそは、洵に我が殉國犠牲の象徴にして、又その貞烈淑正の令徳は萬代婦道の典型として國民齊しく仰ぎ奉らねばならぬことであります。

今回本會に於ては宮様御婦徳宣揚の一助として「鏡様」人形を廣く同好の士に頒布することにいたしました。此の御人形の原型は宮様の側近者を出せる正六位法有季家所藏にかゝる由緒深き御人形にして、人形製作の大家山田徳兵衛氏が謹製したるものであります。尙此の御人形の原型は國定教科書小學國語讀本卷十二にも登載され宮様の尊容を偲び奉る史料の確實なるものはこれ以外にはないのであります。又本人形の添書中には宮様の御眞蹟の對鏡の御歌を奉載し、題字は御宗家徳川公夫人泰子の直筆にかゝるものであります。冀くば江湖の諸賢の御贊同により廣く一般家庭・幼稚園・小學校・女學校等に奉安されんことをおすゝめ致します。

「鏡様人形」

推薦

倉橋惣三

幼稚園の雛棚へ「鏡様」を加へたいものです。飾るには一番上の段、親王様のお近くの方へならべて飾るのが正式だと、その道の人に教へて貰ひました。昨年も澤山御希望がありました。皆さんの幼稚園にも今年からは是非、お薦めします。

御身長 鬚先まで 曲尺六寸五分
黒塗臺及び桐箱付

金拾八圓也

送料

東京市内 二十二錢 樺太・臺灣 六十二錢
内地一般 二十一錢 朝鮮・滿洲國
但し代金引替の場合 十八錢増

東京市芝區芝公園増上寺中

頒布先

財團 靜寬院宮奉讚會

取次所

財團 靜寬院宮奉讚會
東京女子高等師範學校附屬幼稚園内
日本幼稚園協會

電話 大塚三一四一一番
振替口座東京一七二六六番

倉橋惣三編 (新刊)

新體幼稚園唱歌

四六倍判
定價(送料共)
金七拾錢

目 日本国旗日の丸の旗
次 道 ぶ し ん
倉橋惣三 作曲
井上武惣士 作曲

いうびんやさん 倉橋惣三 作曲
弘田龍太郎 作曲
渡し場の船頭さん 倉橋惣三 作曲
中山晋平 作曲
火消しのなちさん 倉橋惣三 作曲
小林つや江 作曲

日本幼稚園協會編 (新刊)

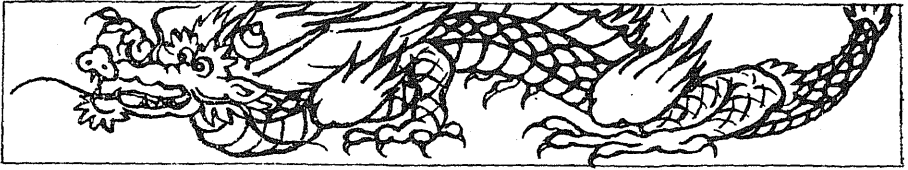
幼稚園新唱歌

四六倍判
定價(送料共)
金五拾錢

目 村 耕 作
次 雨 杉 山 米 子 作
小 松 耕 輔 作 詞
小 松 耕 輔 作 曲

ほ た る 青山綾子 作曲
小松耕輔 作曲
ふ し ん 場 氏原銀 作曲
小松耕輔 作曲

〇この二つの新刊幼稚園唱歌集は、幼稚園の爲に新しい歌曲を求めて居らるゝ方々に必ずや充分歓迎せらるゝことを期待してゐる。



第 四 十 卷 幼 兒 教 育 第 三 號

(次 目)

扉

幼稚園と小學校の聯絡

倉橋惣三(一)

幼稚園の眞生活

時下米太郎(四)

三月の幼児童話

葛原しげる(六)

春の氣候と幼児の衛生

萩原兼文(二)

母性愛の進化

岡徹(三)

新入園児を迎える心

蒔田ソヨ(八)

おはなしの光

大塚喜一(三)

三月の生活訓練

小島その(四)

此の頃の子さも

船田ふさ(六)

紀元二千六百年を迎へて(はがき回答)

(二)

浦島を乗せた龜に會つた話

河田禮太郎(三)

月刊「幼児の母」の計畫に就て

倉橋惣三(五)

幼児の母

(毛)

幼時の追憶

曾根保(四)

ハイディ——ヨハンナ・スピリ原作

津田芳雄譯(哭)

〔最新刊〕

幼稚園の園

生活

大和郷幼稚園

坂内ミツ先生著

四六判上製・函入全一冊
定價・一五〇

天真爛漫神のやうな子供達、幼稚園の生活はたゞ見れば明るい幸福に満ちあふれてゐます。然しこの天使のやうな子供達の指導はなんと難かしいこととせう。著者はこの同じ立場にある人々のために廿餘年間の體驗から得た秘訣を公にされました。大きな慈愛に輝き、細心の注意に充ちた本書は皆様の疑問、悩みをたちどころに解決するでせう。

一 幼稚園の目的及必要

二 私の理想とする幼稚園

三 幼稚園の組織

一次目要主

1 先生(保母)

2 幼児

3 園舎

4 設備

5 編成

6 一日の生活

四 良い幼稚園

五 保育上の注意

1 観察

2 談話

3 唱歌

4 手工

5 畫き方

6 遊戯

7 躑方

8 年中行事

9 自由遊び

六 結論

幼稚園教育論

法政大學教授 城戸幡太郎先生著

文部省推薦 一・八〇

興亞日本の建設發展のために輝ける本書を全保育人に贈る、健全なる國民の育成こそは幼児の保育よりスタートせねばならぬ。強く正しく導くために、幼児教育の新組織を樹立し、全問題を解明した最も科學的な幼児教育論である。

〔内容見本進呈〕

東京電話 九〇五
田段東 四〇五
一・三四
橋六八

賢文館



いつもは、自由畫帖の中から拾ひ出してゐた編輯子が、三月號にといふ編輯技術から、こんどはお難
さまを注文して描いて貰つたのが此の畫である。ことしのお節句に先立つ二月のことだから、常
然記憶畫である。ところが、驚くべきことに、どの子もどの子も、親王さま、内裏さま、官女、五人
ばやしと、ちやんと各段の位置を描いてゐる。なか／＼丹念な密畫もある中に、之れなんかは、相
當粗描の方である。しかし、粗描ではあるが至極く面白いところがある。お離さまの顔が、まるで
普通の子どもの顔をしてゐる。今にも話し出しそう。菱餅に手を出しそう。菱餅に手を出しそう。
つまりは、そういつまでも、ちつとしてはゐるそうにない顔をしてゐる。そこがたまらなく面白い。
子どもの畫は、何を描いても自分を描いてゐると言つたら、あんまり普遍化し過ぎた言ひ方にな
りかねないが……。

(倉橋惣三)

幼稚園と小學校の聯絡

倉 橋 惣 三

幼稚園は必ずしも狹義の小學校豫備教育ではない。しかし、家庭教育を補ふて、國民の幼兒期教育に當る以上、小學校との密接の關係にあるべきは言を俟たない。その教育の効果は、小學校への就學に好條件をもたらすものであるに相違ないし、小學校は、幼稚園保育終了者を、最も喜び迎ふる筈に相違ない。たゞ從來此點に於て、往々にして、餘りに神經質的な小節論が行はれたり、甚しきは、幼、小對立的粗野の論議が投げ出されたりしたこともある。敢て氣にかけるべきでもないが、相隣接する教育の各分野に於て、親睦の情意の不足するものがあることは、ぎつちの爲さいふことよりも、子ぎものために遺憾なことが生じ易い。世間の空論家や漫論者が、幼稚園の利害など、ロク／＼幼稚園を觀たこともないで暴言するのは、さうでもいゝとして、苟も小學校教育者にして、幼稚園に對する無理解の素人論を濫にする如きは、最も慎むべきである。

しかも、吾人が茲に語らんとするのは、そうした客觀的批判的問題としてではない。幼稚園が折角く自ら保育したるその効果を、小學校に對して、如何に充分表はしるるや否やさいふ點である。國民教育に入るに先立つて二年なり一年なり三年なり、家庭以上の教育的理解性を以てその子を保育し又、研究し來れるものが、それを小學校の教育に有効に役立てなかつたならば、その責務を充分に果せるものさはいひ難いであらうさいふ問題である。

幼稚園が保育機關であると共に、個々幼兒の研究機關であることは更めて言はない。又保育そのことゝしても、必ずしも數年にして一人々々完全に保育効果を擧げ得る者のみとも限らないであらう。即ち、よくして小學校に送るさいふこと一方に即せずして、よく知つて小學校に參考に供すさいふことの任務をも、大に負擔實行すべきである。

而して、これが爲に、種々の方法を機會があり得るのであるが、就學の時期は、その大切の時機、少なくとも、その端緒につくべき時である。小學校は、その新入學兒童の健康、個性、家庭の狀況等に就て、最も早く知ることを必要とし、又知りたがつてゐる。之れが爲に、一方兒童の觀察のために苦心し、又一方家庭調査に苦心する。しかも、親は必ずしも兒童の教育的觀察者ではなく、小學校の調査上の要求に對して、適當なる答辯者たり得ないことが寧ろ普通である。又、それが無理のないことである。そこで、小學校は、何人か豫備調査に當つてゐて呉れば最も便利さるのである。幸にして、それに當つてゐるのが幼稚園である。

たゞ實際上として、この當然の任務を、幼稚園をして負擔せしめざるにも理由がないとはしない。その一つは、幼稚園自らの、幼兒觀察に關する自信の乏しきことである。他の一つは、その申送りに對して、小學校が果して正しくそれを受取るか否かに就ての安心の薄さである。この二つは遺憾ながら今日の事實でありそうである。

先づ、幼稚園に於ける此點の自信の乏しきことは、幼稚園保育者に科學的訓練の少なきに基くのであつて、大に充實を要する點である。多少低格的、又異常的な兒童の保護教育にあつては、所謂サイコロヂストの専門的鑑査に俟つことが普通とされてゐるに拘はらず、普通兒童の場合に於ては、極めて常識的、或は常識の名に於ける非常識的鑑別に過ぎない。知能の査定は簡單ながら行はれるとして、性格の鑑査に至つては、甚だ粗漫なる識別と表現とに止まるのが常である。

第二に、小學校の受取り方に對する不安心さは、折角くの正しき通告が、教育的基礎資料として取り上げられる前に、その子の價值評價の材料として、擔任教師の先入主的誤解を興へはしないかといふことである。之れは今日の小學校に於て、昔日と其の趣きを異にする處大なるものがあるのであるが、その子を愛する幼稚園としては、危懼するも亦已むを得ないところもある。小學校として、科學的眞の把握よりも聊か評價に急なる傾向があつて、この危懼未だ全く安全と言ひ難いところもある。

斯くの如くにして、愛を以て送る幼稚園が、その子の爲に隠さんとするは充分理解するに足るのであるが、同じく教育科學の専門家同志としては、そこをもつて科學的に實行することによつて、國民初等教育の出發を正しからしめることが、極めて必須のことと言はれざるを得ない。

而して、これが實行法として、客觀的科學的形式に於てするこの有效なると共に、愛を加へたる表現を以て、幼稚園から、小學校擔任訓導に、懇ろに、周到に、教育的に語らるゝことが、最も適切であることが多い。殊に、幸にして幼稚園が小學校と連結されてゐる場合には、之れを行ふに最も便利なる機會が提供せられて居り、寧ろ當然の交渉に屬するのである。大都市等に於ては、幼稚園終了者の就學が、甚しく分散的であつて、その實行に相當不便なることもあるが、町村、又小都市に於ては、實行に少しも困難がない筈である。たゞ幼稚園に、その熱意さへあれば出来ることである。但し、理論的にいへば、それは、小學校の方から要求するところでもあり、小學校の方から幼稚園に就て調査したい位のことであるのであるが、そんな順序はさうでもない。さういふよりも、その一人々々の子さへへの愛情からいつても、その就學の幸福に對する責任感からいつても、先づ赴き告げざるを得なくなるのは、幼稚園の方であるべきであらう。

さて、斯様に於て、國民教育就學前の豫備鑑別が、幼稚園によつて普く行はれるに至つた時、幼稚園の國家的存在の意義が、一般的認識の上に確立するであらうし、小學校が幼稚園に俟つところあらんとする態度も、大に加はるであらう。これは、古來往々にして考へられ又行はれてゐる如き、就學前の準備的效果に於て幼稚園の普及を望むよりも、一層教育的に深い意味をもつところでもあらう。少くも、幼稚園と小學校との聯絡の、眞に教育的意義を擧げ得るであらう。

今や、園兒の爲にこれを一般的に實行せらるべき時期に會してゐるのであるが、若し全體的に行ふことが、直には難いとするも、特にその必要の多い幼兒に就ては、是非之れを實行せられたいものである。健康上に就ては、擔任の豫知を得ておかなければならぬこともあるであらう。性格の上に、特に注意して貰ひたいこともあるであらう。更に、家庭事情に就て、教育的にも、その子の心もちを重んずる上にも、耳うちして置く方がいゝこともあるであらう。さういふ場合、小學校の先生に任せて、思ひがけざる誤解や、取り扱ひちがひを生ぜしめたさしたら、それは幼稚園の、その子に對する不熱心として責められても言ひのがれることは出来ない。それらは家庭がする筈ださういふ言ひのがれも出るかも知れないが、家庭の教育的補助者協力者としての幼稚園は、さういふ専門的な役割に於て大に役に立たなければならぬのである。

幼稚園の眞生活

東京府女子師範學校附屬小學校主事

時 下 米 太 郎

幼稚園は幼児の全家庭生活と小學生活の中間に位する。けれども決して小學入學の準備教育であつてはならない。蓋し幼稚園はそれ自體が獨特の意義を持つべきものであつて、若し準備教育としての幼稚園があるをすればそれは大いに反省しなければならぬ。

幼児は生れ落ちるに温い家庭で愛され我儘を通し得るのに對し、幼稚園の生活は園児にまつて全く新しいそして教育的に數多くの重要な意義を持つものである。

まづ幼児のこれまで過ごして來た家庭生活が基礎的重要性を有する事は勿論である。即ち他の何者の準備的生活でもあつてはならない。同様に幼稚園生活も亦絶對的に獨自の意義がある。

園児には入園の日から園友が出来る。これらの園友こそは、園児が家族以外の人に親しく交る最初の友人であり同行者であり、その一員となつて園児は互に協力して一の社

會を作るのである。

かうなるに園児は今までの全家庭生活時代のやうに我儘放題では通れなくなる。自分が我儘をすれば自分の園内の生活に不都合が生じる。又他の園友が我儘をすれば自分が迷惑を感じることも分つて來る。従つて今までの勝手氣ままの生活を少しづつ差控へなければならなくなる。謂はゆる「本能の整理」を必要とされるに至る。これは反省の結果、か養育の効果と云ふには餘りに本然的な動向である。

幼児が社會人として國民として育つ第一歩はこゝから始まるとも見られよう。よりよき幼稚園時代を持つ幼児の現在並に將來の幸福は蓋し思ひ半ばに過ぎるものがあるであらう。

併し幼稚園に於てはかゝる教育的効果は最初から所期の目標に掲げて一定期間内に急速に強要すべき性質のものではない。成人の立場を以て之に臨み、その既成的生活を強

ひたりなきしては幼児は恐らく美しい芽生えを踏みにじられて了ふ程の不幸を見るに至るであらう。

園児はやはり園児同志に育つものであつてそこでは園児の許された世界の本然な生活が廣げられ続けられてゆく。

この生活の本然性の豊かなほゞ園児は素直に麗しく健かに育つのである。

そしてそこには園児相互に融和したおのづからの遊びがある。園児はこの遊びの間に自らの環境をよく観察し鑑賞し、模倣してゐる中に發見と創造の天工がなされる。こゝに遊びはそのまゝ徳育にも智育にもなり又體育の使命をも果たす。

幼稚園の普通教育は遊びの間に在るを云つてよい。遊戯・行進がそれであり、土いぢり・砂あそびもそれであり、折紙・切りぬき・寫生等もそれである。園内生活すべてがそれであり、入園後の家庭生活も亦そうした傾向になる。保母は園児等と共に遊び耽りつゝ一面には常に靜かに見守つてゐる心で時々僅かに方向づけてやるのでよいと思ふ。

これまで人見知りした子が多面的に園友と交り、圓満に自在に遊べるやうになる。偏食的傾向が次第に直つて何でも美味しく食べられるやうになる。自分のこゝに苦情を云はなくなり、友達の間話までするやうになる。その變化・

進歩の素晴らしいのには驚く外はあるまい。園児はこれまで家庭内で大人の生活に交つて一種の退屈を感じてゐたものが、今は楽しい遊びに遊びつくせぬ思ひになる。無聊を食物でまぎらしてその爲に胃腸を損ね勝ちであつた事は全く跡を断つて了ふ。

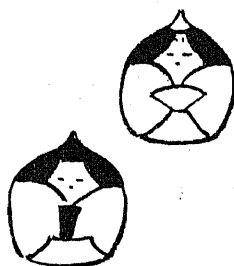
かうして幼いながら次第に自主的生活態度になり、情操は豊かに克己の美風すら養はれて來て、一方健康度の高まるこゝろから身體の發育も目に見えて著しい。今まで他より與へられ通した一日の生活が今は自ら進んで開拓する楽しい生活に變り、更に明日の楽しさへ展開してゆく。

園児が一たびこの境地に至ればその幸福は何ものにも替へ難い。初春の日光を浴びた草木のやうに、冬籠りの芽が健かに麗しくすくすく伸びてゆく。これだけでもう十分である。何の爲の準備であらうぞ。神の國の神々しさは此の園児等の育つ喜びにある。神の子の尊さは此の園児等の上に盡きるを云つてよいであらう。

幼稚園の眞生活は此の理想境を地上に實現し、そこで皇國の寶としての園児を本然の姿に育むこゝにあると思ふ。

三月の幼児童謡

葛原しげる



三月は、まつ早く、三日の桃のお節句があります。「雛まつり」です。その歌は、ずる分前に次のを、ものしました。

この中に「お日」「こいふ言葉」がありますが、これは、お恥しながら、私の郷里の言葉で、實は、困つてをりますので「お日様」を直しても歌へますから、さう願ひます。私のモット、一である、「ニコく〜ピんく〜の歌」にも

「お日が照らうを照るまいを」
「夕日」にも

「鳥よ、お日を追つかけて」
ごあります。みな、「お日様」を直したいを考へてをります。

さて「雛まつり」は、

——ひなまつり——

葛原しげる歌
梁田貞氏曲

- 一、今日はうれしい三月三日
桃や櫻のお花を生けて
きれいにかざつた雛だんの
前にならんで遊びませう
- 二、皆仲よく遊んでをれば
お日がおへやに明るくさして
お花ものこらずさきました
おだいらさまもうれしさう

（大正幼年唱歌第九集）
であります、第一節では、雛壇の前に並んで、お友達

さ遊ぼうさいひ、第二節では、さうして遊んでゐるさ、お日様の光が明るくさしこんで、気がついてみるさ、桃も櫻も、のこらず咲いて、いよく美しく、お内裏様も、嬉しさうだ、さ悦んでゐるのです。まごごに、如何にも、のさかな、花やかな光景です。

三月の聲をきゝますさ、「春」の心地がするのは、大人ばかりでせうか。事實は雪の下にも、春の芽は出かけてをり、二月の風の寒い中にも、柳の芽は、十分に、伸び出る支度をしてゐるのです。「知らぬ間に柳の芽が出てをりました。いつのまに、吹いてゐたのか、春の風「さいふ」春の風」もありますさほり、知らぬ間に、春の葉は、雪をおしつけて、頭を出さうさしてをります。その中に、莖があり、たんぼぼがあります。さちらも、人目につかぬ中に伸びかけてをります。そして、早く、野に出よ、野に來いよさ、子供を招いてをります。

次の「すみれたんぼぼ」は、莖さ蒲公英この色を、苦もなく覚えしめようさいふ考から、第一句を、「すみれはむらさき、たんぼぼさいろ」さしました。他には、何の巧みもなく、何の欲もありません。さちらも美事に咲いて、きれいな野邊で、皆さんで遊びませうさいふだけです。

——すみれたんぼぼ——

葛原しげる歌
梁田真氏曲

すみれは むらさき
たんぼぼ きいろ

さちらも みごごに

のに さきましたた

みなさん そろつて

のあそび しませう

すみれ たんぼぼ

きれいな のべで

(大正幼年唱歌第五集)

まごごが、これだけでは、あまりに、單純であり、何さなく物足りないさいふので、のち十數年にして、次の「たんぼぼさいた」を新作しました。これには、目もさめるやうな色である黄の美しさを、十分にあらはさうさして、

ゑがほを並べて

さいつたり、

お日様にこゝろ、こがねの花に

さいひましたし、更に、蜜蜂をも出して、

せはしく、花から花へ

さいひました。申すまでもなく、幼児さいへさも、

お日様にこく

こがねの花に

こいへば、花に、日がさしてゐるので、その花の黄は、
ますく鮮かであることも分りませうし、

蜜蜂せはしく

花から花へ

こいへば、「花から花へ飛び廻つてゐる」忙しさである事
は、十分分るご信じてをります。

また、

たんぼぼ さいた

野みちに さいた

を各節で反覆しましたのは、「たんぼぼ」こそは、野の花
であつて、春の野に無くてはならぬ花である事を強調した
うたです。

——たんぼぼさいた——

葛原しげる歌
梁田 貞氏 曲

一、たんぼぼさいた 野路にさいた

急がほを ならべて

みんなよく さいた

二、たんぼぼさいた 野路にさいた

みつばち せはしく

花から 花へ

三、たんぼぼさいた 野路にさいた

お日さま ニコく

こがねの 花に

(昭和幼年唱歌第四集)

三月は、鶏の雛の月でもあります。いえ、そろそろ孵化
したのが、外に出て、よちく〜ビョ〜と、盛んに活動を
はじめるによい月です。小さな體、小さな脚、そして小
さな嘴に、不似合な大きな聲を張上げて、仲間をか、親鳥を
か呼ぶ真剣な様子も、涙ぐましいものがあります。
この幼児唱歌としては、昔から次のがあります。

——ひ よ こ——

文部省唱歌

一、ひよひよよこ ちひさなひよこ

兄弟なかよく 一しよにあるけ

あしのつよく ならぬうちに

まほくへゆくな ひさりでゆくな

二、ひよひよよこ かはいひよこ

いつでもおやに だかれてねむれ

はねの長く ならぬうちに

はなれてねるな ひそりでねるな

ところが、所謂童謡か盛んになりましたから、次のが出
来ました。まづ、

體は 草より低く

足は 草より若く

眼は 露より涼しく

心は 親よりやさしい

さいふのですが、最後の「親よりやさしい」は、少し、
薬が利きすぎてをりませんかしら。しかし、最後に

寢床は 綿より ぬくい

こらつておきて、

親のおなかへ はいる

さいふのは、流石に、面白いではありませんか。つまり
は、親のお腹の下か、翼の下へもぐりこむ愛らしさ、ま
た、幸福をいふのですから、人間には、一寸、眞似の出来
ない氣持よさですね。

— ひ よ こ —

一、ひよこ〜

島木赤彦氏歌
上田友龜氏曲

お前の體は 草より低い

草にかくれて ピョ〜歩く

二、ひよこ〜

お前の足は 草より若い

草の芽をふんで ピョ〜歩く

三、ひよこ〜

お前の眼は 露より涼しい

露をすつて ピョ〜歩く

四、ひよこ〜

お前の心は 親よりやさしい

親に呼ばれて ピョ〜歩く

五、ひよこ〜

お前の寢床は 綿よりぬくい

親のおなかへ ピョ〜はいる

(童謡唱歌名曲全集)

次のは、稍々似てゐますが、

可愛い、聲で——うたふ

可愛い、足で——歩く

可愛い、口で——たべる

さいふのです。全く「ひよこ」は、右の三つの他には、仕
事がないのです。

八波則吉氏歌
平岡均之氏曲

一、ピヨ〜ピヨ〜 可愛い〜ひよこ

からをこわして 巢立つた子供

可愛い〜聲で ひよこはうたふ

ピヨ〜〜〜〜〜 ピヨ〜

二、ピヨ〜ピヨ〜 可愛い〜ひよこ

日の暖かな お庭をみんな

可愛い〜足で ひよこは歩く

ピヨ〜〜〜〜〜 ピヨ〜

三、ピヨ〜ピヨ〜 可愛い〜ひよこ

親鳥えさを 拾つてやれば

可愛い〜口で ひよこはたべる

ピヨ〜〜〜〜〜 ピヨ〜

(童謡唱歌名曲全集)

しかし、右の二篇は、幼児唱歌としては少しく、複雑にすぎませんかしら。私は、大正の中頃、忙がしげな中に、楽しみもあり、更に、あまり、ちよこ〜しすぎて、垣根の外へ出ることもなく出てしまつて、一羽、迷ひ子になつて、それこそ、聲を限りに、ピーヨ〜ミ叫んでゐるユーモラスなもの入れました。

葛原しげる歌
梁田貞氏曲

ひよこ ひよこ ピヨピヨないて

おやのまはりで

よろこびながら

えをひろふ

えをひろふ

ひよこ ひよこ ひよこが一羽

かきねのそごで

まひ子になつて

ピヨ ピヨ

ピヨ ピヨ

(大正幼年唱歌第五集)

(つゞく)

春の氣候と幼兒の衛生

東大衛生學教室 萩原兼文

春先ともなれば、庭の小草にも一つ二つ新芽が萌え初め、梅の小枝に鶯の訪るゝ様になります。まだ〳〵寒さは相當に厳しく池の面には氷が張り、北風は身を切る様に吹き荒びます。兎に角三寒四温を申しますか、春の初めは、冬型の氣候から夏型へを移り變る時機で氣象の變化も甚しく、暖いかと思ふと急に寒くなる、氣候の定まらぬ時です。

健康體に於て體表面溫度は攝氏三三二度位ですから、今假りに外氣温を一〇度としますと、三二度と一〇度の差、即ち二二度差、衣服なり煖房なりで調節しませんと寒さを感じる事になります。つまり人為的の體温調節をして居るのであります。

然し人間は生物ですから自然的、生理的に體温を調節しようとする努力をします。即ち、吾々は寒くなりますと、脂肪の多い物、甘いもの等を食べ度くなります。なるべくカロリーの多い、熱源になる様なものを食べるのです。亦寒い處に出ますと、皮膚は收縮して體温の放散を少くし、運動して體

内の熱發生を促進させようをします。かう云ふ體温調節を化學的の體温調節と申します。

亦外氣温が攝氏二〇度以上に昇つて來ますとだん〳〵體温を放散し難くなります。吾々は常に攝氏三七度の體温を維持する爲に、絶えず體内で熱を發生して居ります。つまり體内には酸化現象が不斷に行はれて居ますから一方それ丈宛、體温を捨てなければなりません。外氣温の低い時は〳〵外へ熱が逃げますが氣温が高くなれば體温放散は困難になつて來ます。殊に夏季甚しい時、無風で、湿度が多ければ、猶更體温放散は至難となり其結果體温が上昇して所謂鬱熱状態になります。其處で外氣温が高温になりますと、吾々は必然的に皮膚表面が充血し、汗を出します。即ち汗の蒸發で體温を捨てようとするのです。この體温調節を物理的の體温調節と申します。

以上三種の體温調節を行つて吾々は

寒暑に對處して居りますが、此調節反應を敏活ならしめて常に健康を保持する爲には、平素から皮膚の鍛鍊を怠らず、身體を清潔に、適度な運動で、十分なる安眠、營養が肝要であります。所謂健康體であれば、寒暖の差をそれ程、心配しなくとも自然的に對處して行けませんが、老幼、病者は餘程氣候の激變には注意せねばなりません。尤も幼兒は内にこれから大いに伸びんごする活力を藏して居りますから、老人や病者の様に餘り寒暑に留意し過ぎるのは却て身體の鍛鍊を忘却する事になつて悪い結果を來しますが、何分未だ鍊磨されない弱々しい體ですから、常に周圍の人は其健康に注意してやる必要があります。

春でも五、六月頃になりますと吾々の體温調節は實に樂な時季になります。暑からず寒からず、氣持よい快適な氣候ですが、學者の研究に因りますと、吾々の皮膚表面一平方糎から毎秒

一、五ミリカロリー位の熱を放散し得る時季が最快感であること云はれて居ります。丁度五、六月三十、十一月の晝頃の氣候です。

次に春先三、四月は氣候の激變に伴つて、非常に風の吹く時です。風が強ければ塵埃も多く飛びます。塵埃が多ければ、それに附著する細菌も多くなると考へられます。(殊に細菌は、攝氏一〇度以上の氣温になりますと、だん／＼増殖力が旺盛になつて参ります。)

近來殊に大都會では、デフテリー、猩紅熱、麻疹等の空氣傳染病が、春季に流行する様になつて來ました。これは大都會の交通量が蓋し頻繁で塵埃の量も非常に多くなつて來たのが最大原因だらうと思はれます。

從て幼兒が、雜沓する市中や、デパート、映畫館等へ出入する時は、なるべくマスクを用意せられ度、歸宅後は十分、顔洗、含嗽して休ませるのが好いと思ひます。

亦春は、櫻の花見にでも出掛けて居ると今迄晴れて居た空が、見る／＼内に曇り出して、ザーツツ一雨、思はぬ敵襲に客や店の人々を驚かす事があります。この様な時ビシヨ濡れになつて歸つて來た子供がりましたら直ぐ着物を着替へさせ暖くしてやらねば風邪を引きます。亦運動でもして汗ビッシヨリになつた時も後で、好く汗を拭き取るなり、衣替へした方が好いと思ひます。衣服が濡りますと、水は非常に熱を良く導くものですから、ぎん／＼體温を吸収されて、感冒に罹り易くなります。

また、いろ／＼御話し度い事もありますが、今日は此位で止めて置きます。(以上)

母性愛の進化

東大動物學教室

岡 徹

ダンテの詩の中に、キリストのこゝを吾等のペリカン—Nostro Pellicano—と呼んでゐるところがあります。舊約聖書の詩篇の第百二篇六節にペリカンが荒野に居ることは書いてありますが、これに據つてキリストのこゝを吾等のペリカンの歌つたものは思はれません。

そのこゝは實は古くからヨーロッパに傳つてゐるペリカンの親子愛に關する傳説に由來したもので、これは凡そ一千五百年前に、聖エビファニウスによつて書かれたものゝされてゐます。或日のこゝペリカンの雛がじやれて嘴で母鳥をつついて遊んでゐました。母鳥もそれに相手になつて嘴

で雛をつき返しつき返してゐるうちに、さうした機が雛が死にました。母鳥は悲歎に暮れて三日の間その死體を見つめて悲しんでゐましたが、そのうち遂に父鳥最後の手段を考へ、自分の胸を嘴で傷け流れ出る血を雛に與へました。するに不思議にも死んだと思つてゐた雛がたちまち生き返つてきたと云ふのです。

これでは父鳥が血を流して雛を甦らしたのですが、後になつては母鳥がわれざわが胸を裂いて流れ出る血で雛を養ふといふ形式をさるようになりました。

こゝろが今から四五百年前頃からは、これが母性愛、犧牲愛の標徴となり、遂には人類を愛するあまり血を十字架の上に流されたキリストを表すようになってきました。バイロンの詩の中にも、ペリカンを荒野の鳥と呼んで母性愛を歌つたものがあります。ペリカンが紋章なきに用ひられるのもこれらのこゝに據つてゐるのださうです。

此の傳説は本來、ペリカンの母性本能の習性に由來してゐるのです。ペリカンは喉に大きな袋があつてその中に赤味を帯びた半消化の食物を蓄へ、それを雛鳥に與へます。母鳥が首を曲げてあの大きな口を開けます。雛は二、三羽同時に母鳥の口の中に頭を入れてこの食物を食べます。ペリカンの此の半消化の赤味を帯びた食物を昔の人達は血と思つた事からこの傳説が創られたのです。

鳥の中には他にも親鳥の半消化の食物を雛に食べさせ習性のもが少くありません。手近な例ではハトです。ハトでは母鳥の餌袋の内面の皮膚がお粥の様にぎろ／＼に溶けたものを口から吐き出しては雛に與へます。ハトの乳—Pigeon's Milk—(ピジョンミル)を云つたものです。

母性愛さか母性の犠牲愛さかは人の母親だけがもつてゐるものでも思つて母性愛をあまりに感傷的に神聖化した女人達がこれに自ら溺れ少しでも甘えるようなことがあつてはそれこそ獸に問へ、然らば汝に教へん」と訓へられるような恥しいことになります。

冷い言葉で云へば單なる母性愛は本能愛で、それだけならそれは鳥や獸や蟲けらももつてゐるのであつて、中には反つて人の母の及びもつかない様な犠牲的な或は周到な母性愛をもつてゐるものがあります。しかもそれを苦にし或は誇らしげにしてゐるものはありません。

母性愛のあるものは、誰にでも誰に教はらなくても、子供を妊娠すれば生理的に發現してくるものが少くありません。ウサギの雌は出産期が近づくに自分の胸毛を摘んでやがて産れ出る子ウサギの爲に柔な温い巢を作ります。ネズミは枯草で巢を作ります。

哺乳類の中には犬のやうに出産までは子供に興味を感じないが出産するに他の犬の子供でも可愛がるやうになるも

のがあります。鳥は卵を孵化する前でも雛に興味をもつて居ます。然し中にはアヒルやツカツクリのやうに卵を産んでも後の世話は何もしないものもあります。

人間でも婦人にしば／＼男性型が見られますが之れは副腎の分泌腺或は卵巢の疾患によつて男性ホルモンが生産される爲めであるとの報告もあります。

ラボー(一九二二)の實驗に依りますに、ハツカネズミでは妊娠の前半期には仔ネズミを與へても何の反應も見られません、妊娠後半期の雌には母性本能が發達してゐるらしく、例へばネズミ類では、鳥でもそうですが、一般に巢を荒したりするに危険を感じるものか子供を別な所へ運んで行く本能がありますが、妊娠後半期のネズミに仔を與へますに母ネズミと同様に仔ネズミを安全な場所へ運んで行きます。次に妊娠後半期のネズミに母ネズミを一緒に置いて母ネズミの眞の子ネズミを與へますに争が起ります。そして結局眞の母が勝利を得て子ネズミを銜へて行きます。

このように、妊娠や出産が轉機となつていくつかの母性本能が目覺め或は強く發現してくるのは先づ或種のホルモンが分泌されはじめようになることによることは明にされてゐるのです。がしかし分泌されたホルモンに働きかけられて目覺め或は發現を強くするようになるもの即ち母性本能の中樞は何であるか、またそれは生物體のどの部分に

在るのであるかが問題になります。

このことに関して考へ易いのは女性の生殖腺系統に母性本能の中樞があるのではあるまいかといふことですが、そうではないのであつて、母性本能の中樞は生物の頭部に在るといふことが最近益々確實にされました。

その好い例はアメリカのホワイテング氏やウエンストラップ氏等が寄生性の地蜂の一種ハプロブラコンを材料にして遺傳學の研究をしてゐるうちに得たもので、それは、ある蜂ではその體がモザイク的に雄の部分と雌の部分から形成されてゐることが遺傳學的に確められました。この様な個體をデナンドロモルフ或は半陰陽體と呼んで居ますが、是等の中で頭が雄で胴が雌で雌の生殖器を具へて居るものがありました。この蜂は雄の本能を現して雌に近寄り交尾しやうとします。然し胴が雌なので交尾は出来ませんが産卵します。然し雌の本能である卵を産み付ける爲に毛蟲を刺し半殺しにする動作は見られず、反つて毛蟲なき食つてしまひます。即ち性本能は全く雄である頭部に支配されてゐることがわかります。

これに反して頭が雌で胴部が雄で雄の生殖器を具へて居る蜂では胴が雄であるために毛蟲を刺す刺は無いにもかゝらず雌の本能を現し毛蟲に近寄り、此れを刺しそれに産卵しやうとします。

ところが體の左右が雌雄半半で形成されて居る蜂では外部生殖器が雄ださ雌さして動作し、雌ださ雌さして動作する事が觀察されました。此の事は新たな興味ある問題を暗示するものですが此所では省略します。以上の事はブランコ毛蟲でも同様に觀察されてゐます。

高等動作では犬で、一八七四年にグルツ氏が、大脳を傷けるさ母犬は小犬に對して興味を失ふ事が實驗されました。そこで次には母性本能の中樞は大脳の何の部分に在るかを明確にしやうと研究が行はれました。

一九二二年にイタリーのチーニ教授は「腦の母性機能」なる論文に其の結果を發表しました。此れは鶏さ、犬を材料にして行はれたもので、鶏では母性機能の中樞は大脳の前部に在るらしく、此所を傷けるさ雛に對する反應が弱くなるか或は其の期間が短くなる。時さするさ小犬が母鶏の下に匍ひ込んで平然さしてゐる。種々の内分泌器官は母性機能には無關係らしく、是等の器官を除去しても母性機能には何の變化も起きなかつたさ報じてゐます。

犬ではその母性機能は大脳の皮質にのみ關係が在るさ思はれます。百二十七匹の犬をお産の翌日に大脳の異つた部分を赤熱した白金針で焼いて傷けた。母犬の本能は普通二、三ヶ月續いて見られるが皮質を手術するさ一ヶ月位しか見られない。又大脳の前頭葉及び前々頭葉を傷けるさ母性機

能が見られなくなるか或は弱くなる。子犬を嫌ひ氣も荒く吠へたり咬みつく事もある。犬でも内分泌器官は母性機能に無關係らしいと報じてゐます。

人では大脳の前頭葉の傷があまり廣くなければ意識は全く普通ではありますが無慾状態が起ります。従つて哺乳しやうごはしませんが哺乳を拒絶する事はありません。勿論、傷が廣ければ意識の濁濁が起り複雑な意識的動作は全く見られません。

しかしチーニ教授の實驗で鶏や犬で觀察された事も、傷の大小に據る意識濁濁さか無慾状態と相同のものであつて、母性機能の中樞が大脳の特定の部位に在る事が明にされたごは思はれませんが。

母性本能の中にはホルモンによつて目覺め或は強められるものご、ホルモンにあまり影響されないものごがある事は容易に理解できるごですが、最近フイリップ氏はネズミで實驗的に明かにしてゐます。ネズミでは仔を見つけて出すご、なめるご、抱きかわいがるご等はホルモンや他の生理的要因に關係なくはじまり、又持續されてゆくもので確かに神経機構がその決定の役をしてゐるごが明であるが、巢を造るご、仔を護るご、巢の上に永く留つてゐるご等は體温の調節や甲状腺の機能の如何によつて目覺め或は強められるものであるごを確めてゐます。

女は弱いが母は強いといふ様な言葉がありますが、これは單なる文學的なものではなく、實に生物學的な事實なのです。動物は一般に自分の生命を保存しやうとする本能が強いのですが、仔ごもあるごきは一時その本能が弱く薄らいでできます。巢の上に卵を抱いてゐる鳥を急に捕へようとするご逃げないで反つてじつご巢の上に坐つてゐます。また雛のゐるごきは人を恐れませんが。

腦の進化から觀れば人の母性本能は鳥や獸のそれよりもはるかに進化し高次のものである筈です。動物は仔を産むが母にはならない——*maternity exists in humble forms, not yet motherhood*——云つた人もありますが、動物もたゞ仔を産むだけではなく、母性愛をもつて育て、教育もします。

それならば人の母、母性愛ごは何んでせうか。人の母性愛は進化した腦の中樞の働きを全面的に發現したものでなければならぬ。しかしそれだけでは母性本能だけであつて單に高等動物の一種としての人間の生物的な母性愛であるに過ぎない。それではゴリラの腦の三倍も大きい進化した腦をもつてゐる人の母ごしては恥かしいごではありませんまいか。

母性愛は本質的にはこれまで述べてきた様な生物學的な、必然的な生理現象によつて起るものであるだけに、根

強いものであり、またそのうへ、妊娠、出産といふこれが強くなる生物學的な轉機があるのですから、こもすれば母性愛は本能的になり盲目的になり易いのは仕方のないことですが、それだけでは人の母性は云はれない。これに反して父親には父性愛を目覺まし強くする様な生物學的轉機は一つもありません。その父性愛は全く觀念的なもの、習慣的、修養的なもの、信仰的なものです。それだけに盲目的ではないとも云へます。

人間の母性愛が本能的な盲目的なものに止つてゐたのは民族には何んの進歩も起らない。これからの民族の母の愛は、全面的に發現された本能愛のうへに、あらゆる教養によつて洗練された、豊かな情操を透徹した知的要素が加はらなければならぬ。

母性の機能が人類文化の保存と進歩に、國家の建設とその發展に、されほ重要な役割を果してゐるか、改めて言ふまでもないことです。

その昔、ナポレオンが、民族の將來をトせんものはその母を見よ、と云ひましたが、よき母を多くもつ民族ほど強大でありましたし、將來も強大優秀なものになることは疑ふ餘地のないことです。よき母になることはまた女性個人として人間として完成するもので、子供を産み、育てたことのない女の人は、すぐれた人であつてもごこか人間

としてその性格性質に缺けたものゝあるを免れません。そして家庭の母であるごこから、社會の、民族のよき母となるごこを心掛けていたゞきたいものです。

男の先輩達はわが民族の男を世界の他の民族の男に敗けないものなまで訓練してきました。女の先輩達はわが民族の女の人達をなほ一層の努力をもつて指導し訓練し世界のいかなる民族の女にも劣らない優れたものに女自身の手で訓練し向上させてゆかねばならぬのではないでせうか。

男も女を可愛がり過ぎていけないのですが、女も男に甘えたがつては女の人の向上はないのではありませんまいか。それにはお互がなほ一層精神的にも信仰的にも、そして智的には數倍の努力をもつて訓練されて後からくる人達を信念をもつて指導し訓練してゆかねばならぬと思ひます。

新入園児を迎へる心

東京市京橋區月島幼稚園

蒔 田 ソ コ

新入園児を迎へる心。ほんまに四月になつたら全部を迎へる心になり切れるでありませうが、すっかり馴れ親んだ

子供たちのこの一年間を二年間を、影の日向のやうに離れない子供たちの、目を綴ぢても浮び出るあの顔この顔の中にあつて果して四月になつたら、そんな心になれるでありませうか、若しなれたらそれは嘘の心のやうにも思はれてならない。母親が産れ出た子供の産聲を聞いた瞬間に湧然と起る母性愛のそれと同じ様にその顔を見、動作に接しない中はなかく、に迎へる心は出にくいやうであります。

何時であつたか倉橋先生の迎へる心さいふ小文を拜見した記憶があります。幼時を迎へる心、一切を封じてひたすらに迎へる心、四月の先生の心である。さいふのであつたやうに覺えて居りますが、ほんまに迎へる心は四月の心であるやうです。然し机の上には新しい入園申込書が部厚く重なつてゐる。事實はやはり新入園児を迎えるその準備に

急がなければならぬ。三月は一番私たちを感傷させる月でこそあるらしい。

生活の向上と共に家庭の幼児に對する教育の理解も年毎に深まつて、入園希望の數も設備の全部を使用してもなほ足りないほご誠に喜ぶ可き社會の狀勢であると思ひます。

三月半ごろ園醫の先生を煩はして新入園児の身體検査を致します。健康診斷程度のものでありまして之によつて輕症の疾患は入園までに治療するやう注意し、其他傳染性の疾病及び特に心身に異狀のない限り入園を許可致します。

さて入園差支へない方たちには、入園の葉々家庭狀況調査の用紙を渡し入園當日までに記入して持參するやうお願い致します。準備すべき品々の見本も並べて御覽に入れます。

入園の葉は毎月の幼稚園だよりを特に四月は新入園の方たちを目あてに入園の葉々洒落たつもりなのであります。巻頭には園長先生が幼稚園を何をする所か、さいふやうな事をお母様方のために親切に細々とお書き下さいます。

次に入園當初の家庭と協力してなす可き躰、登園の注意、入園當日までに準備すべきもの、附添人心得等を記して置きます。

家庭状況調査は四年前京橋區保育會で研究の結果今まで區々であつたのを、まごめたもの、特に幼児期傳染病についての調査を細かにし、集團生活にあつてはなる可く早期發見をなし得るやう勉めたのであります。家庭でも非常に熱心に叮嚀に書き入れて下さるので始終得難い保育の參考と致して居ります。

準備すべきものはエプロン、メリエ帳、クレオン、お辨當入れ等であります。その中エプロン、メリエ帳、クレオンは園で決めたものを揃へていたゞきその他は適當に選んでいたゞきます。エプロンは創立當初制定したものが型もよく、布も後まで廻るので洋服も汚れなくて好いからさして今に使用してゐますが、物資不足のこのごろ餘り布地をゆつたり使つてあるので勿體ない様に思はれて何か之に替るものをご思ひますが、名案もなく又今更棄てるに偲びないやうにも思へて布地の間に合ふが儘に今年もこのまゝ使用して居ります。昨今問題になつてゐる國民服の制定案の中には如何に取扱はれて居りますか存じませんが、例へ小さくも團體の生活に入る者には早急に及ぼされて欲しいことだと思ひます。堅實で洗濯に便利、優美で運動に適した

ものが實現したらみんなに好いことせう。

クレオンはぜひ皆が同じものを使用致したいものです。クレオンによつては随分色の感じの違ふのがあります。皆が同じものを使用することによつて子供の觀賞眼は迷はされることなく正しい反省が出来る様に思ひます出来るだけ正しく鮮明な色を選び色數も十色位が適當かと思ひます。

この他年長組にはメリエ帳を揃へます。メリエ帳使用の目的の一つには幼児たちが無條件で喜ぶこと、構想表現の手引をなすこと、色感を養成すること、觀察の補足をなすこと等であることならば、正確である事は勿論ですがあまり輪廓を綿密に書いてあるのはいけないと思ひます。幼兒の構想をなる可く多く表現する餘白のあるもの、又色鉛筆を使用しない私の園では圖柄の細かくないものをごいふ心持ちで選びます。

お辨當入れは出し入れに便利なものであれば何でも好いのですが一年なり二年なり使用に堪え得る堅牢なものでありたいものです。

その他毎年上靴も揃へていたゞきました、何時も思ふことではありますが子供たちはあまり上靴を履くことが、好きでないのではないでせうか。スキップだ駈けつこと言つては脱ぎすてゝある上靴の底に水が溜つたやうに汗か脂かじつさりしてゐるのを見る時、そのまゝ履きなさいとは

家庭状況調査

(東京市月島幼稚園)

氏名	保護者		家族		幼 兒					
	氏名	生年月日	現住所	本籍地	氏名	生年月日	出生地	第一期種痘	生れて後一年間は何でお育てになりましたか	今までにかゝつた病氣の名
		年月日				昭和年月日	昭和年月日	母乳 牛乳 母乳と牛乳	その他() 百日咳 ハンカ 猩紅熱 水痘 チフテリア その他の病名()	有無 有無 有無 有無 有無 有無
		職業	職柄	電話番號	食 物	小遣 錢	おもにどんな方と遊びますか	どんな遊びが好きですか	主として世話する方	
					好 嫌 あります ありません 一番好きなもの 一番嫌なもの	有(一日 錢) 無				
		この學校を出ましたか	母の 年 月 日	生 年 月 日	住居より幼稚園までの道順の略圖	お子様の教育に及ぼす近所の様子	何を信仰になりますか	親についてどんなところが気に入りましたか	性質又は性癖	親についての希望
										幼稚園でお子様の體について注意する事柄

備考

記入上の注意
 1 この保育上の参考を致し、保存し、存じます。可く精しくありのまゝにお書き下さい。
 2 この調査用紙はこのまゝ保存し、存じます。可く精しくありのまゝにお書き下さい。

言ひ得ない不衛生な氣も致します。今年は經濟上からも手に入りそうにも思はれません。

素足で歩かせて見やうかとは、毎年思ふ事ではあります。あの小さな弱々しい足を見る時如何にも床板の荒々しさが氣になつて、つい今まで實行出来なかつたのだが、今年こそは床板を何さか考慮して思ひ切り素足で歩かせて見たいと考へて居ります。

以上の大體が家庭で準備していただくものであります。費用はなる可く少くしたい、幼稚園を特別の者の行く所なごゝ考へさせたくない、誰れでも來られる所であらしたい、こんな氣持ちから大部分のものは園の備品として備へ付け、自由畫帖、クレオン、出席カード等の必要品も許されるだけは後援會の支出を仰いで用意して置きます。

さていよいよ四月一日、この日は小學校の入學式が午前中ありますので園長先生はそちらの方にお忙がしい、従つて入園式は午後になりがちです。午後のお式、新しい團體生活の首途が午前中遊び疲れた午後はあまりふさわしくない、やはり氣分も新たな午前中に行ひたい。それで四月一日は二、三年保育の方のみを集めます。新学期早々は先生も新入園の子供に氣を取られがちです。その埋合せさいふ譯でもありませんが、ゆつくりした氣持で新しいお部屋や下駄箱を知らせ年長組になつた自覺さ新しいお友達を迎へる

喜びを味はせ、お友達に贈るお土産(簡単な手技)を作つたり等して過します。二日入園式を行います。全部の子供のお顔合せ、下駄箱や帽子かけ、自分のお部屋を、園長先生が紹介下さる擔任の先生のお顔位を覚えてくれ、ば上等です。お兄様やお姉様ぶりのお唱歌やお遊戯を少しお見せしておみやげをいたゞいておかへり。第二日目から三日四日と徐々に時間を延ばします。その間、主に二、三年保育の方たちを動員して團體的な遊び、例へば、猫三鼠、汽車、ついで、ボート漕ぎ等を、又家庭でもよく歌はれてゐるやうな童謡等によつて先づ團體の氣分の中に融和するやう勉めます。

一週間目位からお辨當を始めます。小さい子供たちの幼稚園に來る最初の目的はお辨當を食べるここだけ言つても好い程大部の子供は楽しみにして居ります。食事後無理に長く止めておく必要はありませんがお辨當はなる可く早くする方が好いと思ひます。

之と同時に附添はお玄關までにお願ひして先生は家庭狀況調査より性質又は性癖、躰についての希望、身體について注意する事柄等の欄の回答をメモしたものをつたより正しく子供を知ることにつとめ、お歸りの時三朝の一時を連絡にあてます。

入園當初の躰之れは最も重大視したい事柄であります。今日から幼稚園の子になつたのださいふ小さいながらも希

望に満ちた子供たちの張り切つたその気分をはづさずに心の上にも體の上にもほんまに好い習慣を養ひたいのであります。少々勝手の違つた事であつても子供たちはこの張り切つた喜びの中で案外無理でなく習慣づけられて行くものであります。

朝早く起きて夜早く寝ること

朝食後すぐに幼稚園に来ること

幼稚園に来る前にはお金を使はないこと

食事前には必ず手を洗ふこと

エプロンで手を拭かぬこと

亂暴な言葉を使はぬこと

どんな時でも自分の名前を呼ばれたらハッキリお返事を

すること

自分の玩具や使用品は自分でかたづけろこと

お家を出る時は行つて参ります、歸つたら唯今歸りました

たご挨拶をすること

ほんの一例でありますがこうした誠に些細な事柄のその

一つ一つが子供たちにはほんまに重大な生活訓練の基礎さ

なり、正しく行ふことによつてやがてこの一年間二年間を

又それ以上の複雑な集團的、社會の訓練に對しても苦痛で

なく出来るものであると信じます。

従つて四月の保育豫定案は何時の時よりもより生活訓練

に意を注ぐ月であることは申すまでもありません。然し感受性の強い子供たちの柔かい芽生を踏み荒すことがない様に、私たちはほんまに平かな心で、素直に受入れる大きな懐きを用意して新しい子供たちと一緒に歩きたいと願つて居ります。

紀元二千六百年記念 全國幼稚園關係者大會

紀元二千六百年記念第八回全國幼稚園關係者大會の招待狀が皆様の御手元に来つたことゝ存じます。意義深い本大會には、是非多數の皆様のお出席を切望いたします。(編輯部)

主 催 奈良縣教育會、關西聯合保育會

期 日 昭和十五年五月二十七日、二十八日

會 場 奈良縣高市郡歌傍町檀原神宮境内

申込期日 昭和十五年三月二十日限り

會 費 金貳圓也

大會事務所 大阪市南區大寶寺仲之町(大寶幼稚園内)

おはなしの光

大塚 喜一

おはなしはこれを外より見れば話者が語るのが主であり、幼兒達は之に従つて聽くやうに思はれるが、決して話者一人の力によつて多くの幼兒達をあの様に熱心にきかせ得るものではなく、實は幼兒がきくからおはなしが出来るのである。この事は、良き物語をすなほに話すとき、幼兒の心から直接我等へ迫り来る純なる生命の流れを感じるころに最も鮮明に會得せられる。凡そ人間の神より與へられたる至純なる姿をそのまゝに示せてゐる幼兒の生命の流れを受けて、話者は話すにあらずして實は話さしめられる者である事を、我等は常に體驗し得るのである。この體驗あらしむる根源に反省する時、吾人は話者として立つべき根本に到達する。そは、神の子たる人間をその本然の姿の純なるまゝに生かしてゐるこの生命に合流し歸一して一意専心「聽く子と俱に一心に」語る外に何等餘念なき境地である。〔註参照〕この至境に於ては、幼兒の純なる生命の動きは話者の生命と一味となつて動くから、舊き話者の亂れや曇り等は餘すところなくこの一味の生命の中に融け去り、新らしき話者の清くすこやかなる姿は、刻々に幼兒達から話者へ乗り移りゆく力によつて創り成されてゆくのである。話者が幼兒達から受くるこの新らしき生命の力は、おはなしの進行にも話者に増し加へられ積み重ねられて行くの

であるから、かゝる佳境が幸にも不斷に繼續して遂にその統一の純熟する所おはなしの眞景はこゝに具體現して話者は自分でも不思議なほき光にみち／＼と語り得るのである。話者としてのかゝる快心の體驗は、その一回が他の何回の經驗にも増して格別に自己を力づけてくれること、實に我ながら驚くの外はない。これをたまへて云へば、恰も語る我は聽く幼兒達の中に没してその中より新たに生まれ出づるが如く、舊き自己は幼兒達より照射し来る光の焦點に焼きつくされてその白熱の中より新たな自分として出直してゆくにも似たる姿である。かくして我等の拙きを以てしても猶幼兒と俱に語り得しよろこびを披瀝して「おはなしは子供からきくものである」と叫ばざるを得ないのである。幼兒がおはなしを求め、一心に聽き入るあの姿こそは、話者をして語らざるを得ざらしむるものであり、大人の想ひ及ばざる清き生命の泉の湧くを示すものであらう。(皇紀二千六百年一月三十一日)

〔註〕こゝは「語る」と「聽く」との兩相の分れ出づる頂點であり、話者自ら幼兒の如き心を以てお話の精神に反省すべき本源の地である。この人間本態の子心にかへるところから、内へ向つて自己を教育する事も可能となるのである。それ故にお話の精神(教訓)を相手に貫徹せしめ感受せしめむと欲する者は、茲に自己を没するの修行が第一となるのである。(二月十二日附記)

三月の生活訓練

附屬幼稚園

小島 その

三月の訓練について記すやうにさいふこまになつたが、生活訓練については先年倉橋先生に、本誌上で保育案解説の折御教へをいたゞいた事であるし、又三月であるから特別にこれだけの訓練をせねばならぬさいふ事があるわけもない様に考へるので、たゞ子供さしよにゐて何さなく感じた事の二、三を年少年長に分けて記してみる。

年少組幼稚園の生活にもすつかりなれきつた頃で、年少組としての一番おしまひの月を迎へたのである。この一年間に子供達はいつのまにかいろくよい習慣がつけられて來たのである。しかし生活訓練は幼児の一人一人へのことであるから、それくその都度怠りなく指導して行かねばならない。今頃になつても未だ登園の時間がおそい子供がゐたら、その子供は毎日毎日他の子供と較べてぎんなに氣の毒なこまであらう。これは子供でなく家庭の方へ注意せねばならぬ事である。作業中の姿勢についても今迄怠りなく注意されて來た事であるが、これは作業に熱中するこ

兎角亂れがちでなかくなほりにくいものである、一人一人によく注意を要する。席も光線を背に負ふ様な位置にならぬ様にしなければならぬ。繪本その他遊び道具の取扱ひについてもこのごろになつたら正しい取扱ひが出来る様心がけてやり度いものである。私達の小さい頃は、繪本ばかりでなく、字のかいてあるものは、小さな小さな紙きれでも、非常に大切なもので特別なものの様に考へ、決してその邊に亂雑におくべきものではないと自然に教へられて來たものである。そのころに較べて今はこの種のもの、數が多くなつて來たためか何さなく軽くさりあつかはれてゐる様な氣がする、本をみる時は正しい態度で見ること、又大切に扱ふ様に、後は必ず所定の場所に靜かに眞直に置くやうによく注意してやり度い。こうして書きたてるこ大そう固苦しくなるが、本を出して來た一人の子供のこころへ行つて、そつこ云へばよいこまである。遊び道具も同じこまである。例へばまごこ道具の様な數人でしよに遊ぶものでも、繩さびの様な一人で用ひるものでも、その時は大そう要求してゐても他の遊びに移つてしまつた時は、全く忘れられてしまふ、出して遊ぶ時にいらなくなつたら又こまに持つて來ませうねさ一寸注意してあたへるのこま、だまつて手渡すのこま、何でもない事の様だがそこに違ひが生ずる様に思はれる。食事の時の作法はもう相當正しく行は

れてゐるはずであるが、このころは遊びに夢中になり食事中も午前の遊びのつゞきで一ぱい、食事もそこそこに片づけ仕事にしてしまふ子供がよくあるころである。食事は、はじめからおしまひまで正しくし度いものである。お茶碗にごはんつぶを残さぬこまなぎは當然すぎる位當然のこまであるが、小さい頃から、かくあるべきものこいふこまを、いつまなく習慣づけたいものである。歸りの整容についても相當に自分の手で出来る様になつてよい頃である。いくら元氣一ぱいに遊んでも、落つくべき時には落つける様な子供になつてゐなくてはならない。歸りの仕度はひさりひさりによく先生の方で注意を要することである。

年長組幼稚園生活のもうおしまひの月が来たのである。このころになれば、いつかしらのうちに、この年齢相應のよい習慣がすっかりついてゐるはずである。しかし小學校入學を目の前に控へてゐるので、あれもこれもさ、いろいろな事が目につく、そうかゞ云つて急に小學校式になるこまはよくない。組全體が一しよに行動をする様な場合に、他の人かけはなれて一しよに出来ない子供があるたなら特に注意したい。食事の時や、歸りの時なぎ、何度も催促しなければなかく仕度の出来ない子供がある。こまにこのころは夢中に遊び出すまなかくこれらの仕度は揃はないものである、食事ですまな云ふ前に、特にその子供には

そつま云つてきかせ度い。皆を待たせるこまのよくないこま、皆が同じに出来るのにそれが出来ないこまのはづかしこまを。よく分る様に話してきかせて、その度毎に注意をくりかへしくはげましながらなをしてゆき度いものである。結果があらはれてから注意するこまは親切でない。結果が出る前に一寸注意したいものである。食事の時にしても、こぼしてしまつてから、「そんなにこぼしたの、さあおひろひなさい」ま云つてみたり、食事が終つてお盆を元の位置にかへす時、がたんま亂暴においたのをみてから「さあも一度靜かに置きなほし」ま云つたりしても何にもならない。よくこぼす子供にはいたゞきはじめに一寸注意し、又亂暴な片づけ方をする子供には、その子がごはんがすみそつになつた時、さあお盆は靜かにおきませうねなご一言云ふのま云はないのまではそこに大した差が出来る。作業中は、このころは大そう仕事に熱中するために、やゝもすれば姿勢もくづれ、用ひる道具の類も亂雑になりがちである。正しい姿勢で、道具もきちんと順序よく、机の上を整頓してする仕事の心持のよさを味はせてやり度いと思ふ。何しろほんたうに残り少ないこの最後の生活を、訓練でくらすばかりでなく、充分にたのしませ、又共にたのしみたいものである。

此の頃の子ども

附屬幼稚園

船田ふさ

或る日のお晝

「S子ちゃん駄目ぢやないか、御飯を残しちゃ。」

「お米は大切なんだよ、きれいに食べなくちやいけないよ。」

「さうよく、勿體ないわ。」

等ミグループのお友達にははれて、躍起になつて頂いてゐるS子ちゃん。ぼろ／＼の鯨の子がまじつて如何にも食べにくさうだつたが遂々綺麗に頂いてしまつた。

子供の大きな楽しみであるお辨當に於て、良い習慣をつける事は最も適當な又大切な事である事聞いてゐるが、勿體ない大切にしないではいけないさいふ感じが子供なりに強くなつて來てゐる今はさうした習慣がわりに容易につけられるのではないかと思ふ。ものゝ足りない、さいふ事は幼稚園の生活にもすぐびやく。たさへば新しい晝用紙で思

つても先づ／＼出来るだけ古葉書を利用するさいふこゝ頃。かうした物資の乏しさは或ひは童心を暗くしこせ／＼とした子にしてしまふものかも知れない、併し扱ひ方によつては、ものを大切にする習慣を養成する上に極めて好都合な事であると思ふ。

或る日のお晝

「先生、僕のお庭の靴ね、小さくなつちやつたからお母さんが買はうとしたけき仲々なかつたんだよ。それでね昨日終點(大塚驛)まで行つてやつこあつたんだよ。」如何にも安心した様な顔つきのOさん。かうした事がきつかけになつて、ものゝ足りない話、代用品の話に花が咲く。

「石炭がないんだつて、僕の家お風呂が仲々わかないんだよ。」ミ大人の様なこゝさをいふTさん。

「僕の皮靴代用品だよ。」ミYさん。

「私のマスクのガーゼね代用品よ、綿が口について氣持が悪いわよ。」ミS子ちゃん。

その他炭の話、水の話、子供も自分達の身に直接關係するのでやはり相當に關心を持つてゐる。

あれも勿體ない、此も勿體ないでは折角の子さもを要求を満してやれず、やがてはその心の發達を阻止してしまひはせぬか氣にかゝる事もあるが、今の私その爲に心配する様な事は起つてゐない。子さももの持ち物等大ていの事は

紀元二千六百年を迎へて

必要。

一、神社を園庭に移し奉る事、その他いろいろ考へられて居ります。

大阪市愛珠幼稚園 米山 えん

A 一、同窓會の設立 一、健康教育強化(郊外遊園設定) 一、母の會の内容擴充。

B 大阪市設定の保育方針に則り興亞建設に役立つ心と身體をもつ線の太いがつちりとした幼児をつくりたい、島國根性を根本から捨て、大まかなねんばり強いものにした。そして、

皇運扶翼の大道に、天真無邪氣な幼児たりとも皇國に生を享けて居るもの、一億一心只管邁進致すべきことを保育者自身の不動の態度心構によつて育成すべきこと。

序ながら本年の紀元節は特に幼児に深く印像させたい爲に左記の行事を致します。

一、拜賀式 午前十時より壯嚴嚴肅に行ふ

式場の設備備付に特に意を用ふ

神武天皇御創業當時を忍び奉るべく

大杉に御鏡と五幣をかけ奉安殿の左に飾る

會場内一體の天井の周圍を杉の葉、櫛、日蔭のかづらにて飾

はがき同答

A 紀元二千六百年に當り、幼稚園として御計畫の事業

B 紀元二千六百年に當り、幼児に對する保育者としての心構へ

(到 着 順)

大連市譚家屯幼稚園 小山田 節

A 皇紀二千六百年を迎へますについては只今いろいろ相談中で御座います。

一、各園まちまちと存じますが、保育會全體としては二十四園幼児全體が一人づつ打合せまして只今御造營中の關東神宮に記念獻木を致したい希望であります。

何れ確定いたしましたらばお知らせ申し上げます。

一、記念展覽會

私共の幼稚園では同窓生幼児と共に記念保育室を建て、神様をお祭りいたし、日本歴史的繪畫を備へたい、日本歴史的教育館の

り壯嚴を加ふ。

二、奉祝會（母と子）

(一) 講演 四十分

(二) 幼児のお遊戯 天の岩戸を開く

(三) 母と子合唱 紀元二千六百年 愛國行進曲

(四) 茶菓

神武天皇御即位の折り御用ひ遊ばされた「クモカハラケ」は大和の地元にて作らしめ、これに菓子（おしがし、結び昆布、すゝめ）を入れ昆布茶にて御祝ひする。

(五) 記念品 幼児のものは別に考案中、母にはたすきを送る

(心にとすきとしての標語と紀元とを染め出したもの)

(六) 参拜

(一) 三月上旬 母子づれにて權原神宮参拜

(二) 随意家庭に於て氏神社等参拜せしめ敬神崇祖の念を養ふ。

愛國婦人會朝鮮本部幼稚園 麻 柄 ト ヨ

A 内鮮園児を中心に、内鮮附添人全部にも敬神の念を養成のため神棚を設け度計畫中で有ります。

B (イ) 陛下の大御寶としてつゝしみ敬ひそたてます

(ロ) 興亞の礎の兒として強く正しく愛らしくそたてます

(ハ) 小き皇國臣民として明朗に素直にそたてます

うみへの幼稚園 高濱きみの

A ○同園會を組織致し度と存じて居ります。

B ○記念樹を幼児と共に庭園に植度いと存じます。

○建國の精神を明かにし國家的觀念併せて八紘一宇の精神を養成致し度と存じます。

○體位向上と身心の鍛練に努め將來國家有爲の子女を育成する様に心掛けたいと存じます。

静岡櫻花幼稚園 林 成 子

A 歴史的な尊い記念すべき年に、本園は創立滿三十週年にあたりますので大いに意氣込んで居りました所、此度の大火災にあひ、いろ／＼控へなければならなくなりましたが、左記施設並に設備を活用し、生活を充實させ度願つて居ります。

國旗掲揚 進拜 黙禱 戶外生活 家の生活

神社参拜 武運長久祈願 ラヂオ體操

小遣の節約と貯金奨勵 動物飼育

郊外保育 一週一回の豫 衛生設備の充實

定 給食(一月一三月)味噌汁給食 問食の注意と指導

農園生活 花壇生活 菜園生活

B よい年を迎へた喜びと幸福を味ひながら日本の國體を幼なき心に培養し、體位向上、性格教育に意を注いで行き度念じて居ります。

本郷區本郷第一幼稚園 檜 山 京 子

A 1、今年の紀元節は特に壯嚴に行ひたく存じます。お式のあとで、園内を旗行列を致し、茶菓等も幼児と共にして奉

祝の気分をも併せて味はせ度く思つて居ります。

2、幼児のよろこぶ實のなる樹とかしひなどの樹を園庭に植えて、いつ〜までも傳へ度いと思つて居ります。

B 今年だけと云ふのではありませんが、強ひて申せば、今年は特に、吾が園の國體を理解せしむるお話を多分に織りこんで、しらすしらすの間に國家觀念の養成と云ふことに幾分でも多く努力致し度いと思つて居ります。

水戸市新莊幼稚園 山口 せん

A 一、國威宣揚(具體的方策は長くなりますからばぶきます)

一、偉人祭(郷土の史跡行脚)

一、武運長久祈願と傷痍軍人慰安會

一、母の會活動(勞養の改善、節米運動、幼児の體育増進、

幼児教育の理解を深める爲の講演會、講習會等)

一、貯蓄獎勵

B 一、時局の認識を深める 一、物資の節約、廢品利用

一、保姆自身の健康増進と明朗な精神を以てのぞむこと

猿江善隣館幼稚園 藤野 井行仁

A 紀元二千六百年を迎へ、ことに聖戦下人的資源確保の上からも保育事業に課せられた使命は誠に理窟ぬきにして大切なことである。本園では従來保育上等閑に附せられがちな「實行上」園児に對する給食補給を實施して來たが、二千六百年を迎へ、益々園児の體位向上の上から且その家庭の榮養改善の見地から、本事業の徹底的努力が必要とせられるので、記念事業として、お祭さわぎや表面だけを見せびらかせて線香花火のやうなものな考へる愚を排して、足の浮いたことをさげ、必要有效な

本事業の強化を圖り、實績をより以上擧げることゝを以て記念事業としたい考へである。その外に従來謂ひふらされて手をつけてない仕事を一つ一つ實行に移すことを記念事業の其の二としてゐる。

B 幼児に對する心構は、幼児はおほみたから中のおほみたからであるから、之をそこなはないやうに細心の注意のもとに反省と愛護を以て、當人の向上、家庭の改善を實行したい決心である。要は理論の實際化と幼児を尊重する事を念じてゐる。

静岡市市立静岡幼稚園長 金原 伸子

A (イ)記念植樹 檀原神宮の檀の種を時き八紘一字に因み八本の檀を育成する

(ロ)記念貯金 毎月一日の興亞奉公日に職員園児の貯金をする

B (一)全國保育大會には職員多數出席して聖地の參拜を期する昔神武天皇は國をお肇めになり、今日日本は興亞聖業の達成に努めてゐる、而して静岡は災後の新建設に懸命であります、此の三者を貫く精神をもつていそしみたいと存じます。

新潟市鏡淵幼稚園 倉田 ミス

A 保姆の研究態度を一層熱心に

B 幼児に對しても身體方面についてなほ一層注意

京都市日彰幼稚園 岡本 静子

A 園内の遊園の改造と郊外園の實現に着手致します。尙本年は本園の創立五十週年の記念の年とも相成りますので兼ねて記念植樹を致します。

B 皇紀二千六百年、輝かしいこの年恰かも聖戦下皇國の民草として、誇りと喜びを知らしめ、この尊き歴史を受け継ぎゆくべき人間の素地をつくることに精進したいと念じつゝ、

日々を「強く」「正しく」「朗らかに」
幼児と俱にありたいと存じて居ります。

局友會釜山支部兒童遊園 石原 ユキ

A (イ)園庭に亞細亞地圖の模型池を造つて頂き度と思つて居ります
ます

B (ロ)神武天皇御東征紙芝居を作製し度と思つて居ります
内鮮一色保育の強調

中野區感應幼稚園 青柳 節子

A 養護と生活訓練に重點をおき、この期に設備を一層改善整備致し度く、園庭の花壇と菜園の效果的な利用と、理想的な園兒の給食設備を記念事業として準備を進めて居ります。

B 皇國日本に生れた誇りと自覺を持つと同時に重大なる時局を深く認識し、國策に協力すると共に、めい／＼がその職分に精一ぱい努力すべきであると存じます。

唐津幼稚園長 吉富 フキ

一、演藝會及展覽會開催(二月十一日紀元節式舉行後正午迄演藝會開催)

二、記念木植附

三、十ヶ年間据置貯金(紀元節當日幼稚園にて取扱ふ)

四、幼稚園に於て幼兒の食事研究會(毎月三回)

五、毎年二月十一日獻納金を集める(一年間の間食を金十錢節

約して)

六、市内幼稚園託兒所の合同遺家族慰安會と陸海軍病院慰問
三月十日遺家族慰安會 三月十七日陸海軍病院慰問

B 光輝二千六百年を迎へ光輝ある瑞穂の國の民草であることを自覺せしめ更に皇室に對する認識を深め敬神の念を養ひ皇軍將兵戦傷病兵戦歿勇士の英靈に對し常に感謝の念をいだかしめやがては大東亞を脊負つて立ち得る立派な日本國民となる襟心身共健全發達とした幼兒を育てるべく今までより以上に努力したいと思ひます。

青森幼稚園 今 きよ

A 吾市には十二ヶ所の幼稚園らしきものはあります(内女師附だけ公立)がお互ひの聯絡が取れて居りませんのを遺憾に存じて居りましたが、長くも八紘一字の大御心を心として是非此の年に協會らしきものを組織せねばならぬと、計劃して居ます。愛知縣の起保育園の林良三先生の懇切なる勧誘によりまして十二月から晝食を配つて居りますが、やつて見ると中々興味と意義の深きを覺えました、聖戦下健全なる保育と、物質經濟との二方面に言はずもがな、心の糧と體の養素となる糧をも心配するのは私共のつとめと心得まして、調理は私が致します、眞情を籠めて作り、又出來上つて楽しく會食する有様は何とも嬉しいものであります、母性愛は湧いて來るやうです。又女の子はよくお手傳ひして呉れます、マ、ゴトの保體化とも見られませう、そして食へ残しもしだん／＼なくなり作法も、仕事もよく出來てまゐりますから家庭からはよるこばれます。私は玄米給を備へて居ました、又日頃簡單に出來る營養食を研究して居ました、當地は物價は安くはありませんが、一食七錢を申受けま

お米は半搗です。子供は御飯其の物においしい云ふ觀念を有します、何事も私達のする事は家庭へ感染しますから善いと信ずる事は實行します。

下谷區黒門幼稚園 早塚 文

A 時節柄費用のかゝります事は計劃致しましても實行困難を感じますので、記念展覽會、奉祝唱歌遊戯の會を催し、宮城、明治神宮、靖國神社、天祖神社の参拜を平常より一層意を深くして行ひます。

B 光輝ある國精神を奉戴し、皇恩に感謝し、崇祖の念を一層深め、更に延び行く日本人としての覺悟を幼い乍らもしつかりと心の底に植えつける様心がけて居ります。

大阪市みのり子供園 中根 ゆき

A (一)創設當時は、みち足りぬ方々をお世話致しますのに適當だつた當園も、周圍の發展に今では位置の不適當さをつくつく感じます。

それで紀元二千六百年記念事業といたしまして今迄の園舎は不二幼稚園と名づけて附近の方たちの爲に解放し、木賃宿にすむ人達の爲のみのり子供園は、木賃宿の建ち並ぶ中へ移りたいと今土地の買収や建築の設計その他に努力中でございます。

(二)保姆園兒に今迄以上に宗教的雰圍氣にひたらせ度いと計畫いたして居ります。

B 幼兒に對し

太い線。精神的にも、身體的にも強く生きゝる人になれますや

う、その素地をつくつてゆき度いと希つて居ります。(自分にそれが無い爲でせうか、それをせつにねがつて居ります)

神田區芳林幼稚園 立野 ミエ

A 1、奉祝記念展覽會開催(皇軍將士慰問作品展覽會も兼て、二月十一、十二の兩日)

2、保育設備の充實

3、記念貯金(新入園兒は入園記念もかねて、毎月興亞奉公日に各家庭より園兒の貯金總額の報告をうけて調査)

4、傷病兵慰問(園兒一人残らず出来るだけ多くの傷病兵を慰問する方法をとる)

5、母の會結成

B 戦時下に榮ある皇紀二千六百年をむかへることを誇りとし、共に喜び感謝しつゝ、明日の興亞日本を擔つて立つところの強い心身の子供に育て上げたいと思ひます。

京城府 彰徳幼稚園

A 本園は報徳主義に依り設立し其教憲を奉じて保育を致して居りますので、此の光輝ある皇紀二千六百年記念事業として、二宮先聖の銅像を建立すべく三年前より資金の蓄積を計り、今や既に大阪市西淀川區野田町六五六慶寺製作所に於て鑄造中に屬す。就ては五月十日創立二十五週年記念式に際し除幕式を舉行するの豫定でございます。

B 實祚の無窮を祝し、皇運の隆昌を祈り奉ると共に、この輝しい園に生を享けたる幸福を無限に感謝するため世界無比なる我が日本の美風温情を味ひ、益々報徳精神に目醒める教養を怠らず、生々發展の實を表はし以て報徳根本の力を發揮し度存じてなります。

浦島を乗せた龜に會つた話

河田禮太郎

果しない大海原の水がさある小島の楯を洗ひ、島續きの丘に沿つて入りこんでゐる。入江の渚に沿ふてさながら人目を避ける如く、砂上に覆ひかぶさる様に立ち竝んだ小屋は漁夫の住む家であらう。

ブウンミ鼻をつく強烈な香の中に、ブンブンミかすかに聞えるはばたきの音は竝べた乾魚に集ふ蟲の聲であらう、入江の片側の岡には青松の並木が続く。遙かに之を望めば人は何かしら遠い希望と幸福さを感じるであらう。折ふし聞える松風の聲に和して海女は一睡の夢をむさぼるであらう。

この松並木の盡きる所に半身を水にひたして小さな岡が立つてゐる。岩と土砂で出来上つたこの小丘の上は一面の竹筥が生ひ茂つて一樹の松が全身を抱く様にして地面まで垂れてゐる。この松の陰に一字の古びた祠がある。この小丘の頂に立つて遠く北の方を望めば、日本海の波がヒタヒタと迫つてくるのが感じられる。この小丘の先に巨岩大石が無難作に投げだされて海中にさつしりミ腰を下してゐる。

る。岩と岩との間、石と石との境、忍びよつた薄暗い海水の中に人の足音をききつけて、電光の様に姿を消す魚は何であらうか。

飛び石傳ひにわたつて行くミ、僅かに水面に浮き出た岩疊が格構の釣場を提供してゐる。仰げば無限にひろがる青空、俯せば果しなきわだつみの底。

ぼつかりミ一人の若者の顔が岩疊の上に浮んでゐる。一見佛像のうかがはれる懐しい顔である。此處の岩角、彼處の水面に群れミぶ海鳥の一種無氣味なコーラスの中に若者は絲を垂れてゐる。

×

澄之江の浦になつかしい水邊の祭が訪れてくるのは夏も酣の七月末のころである。此れが浦島神社の祭禮である。

この楽しい行事をさりわけ少年少女達はさんなに待ち焦れるころであらう。貰ひためた御小遣が可愛い財布の中で踊りだすのはこの時である。親族ある者は招かれて客さなつて一夜を楽しむ。

ドンドンと背の口からたたき出す大鼓の音は、若き男女の胸もさきめかすのである。やがて灯ももし頃になれば近郷近在から出た人の波は、鹽風涼しいこの水邊に吸ひ寄せられて立ち竝んだ夜店の間を、思ひ思ひの歡聲をあげながら舞きあふ。ゆらゆらと水に映じて搖れる火影を追ふ音もなく小舟が消えてゆく。

ガラランガラランと鳴物入りで何やらわめく見世物のテント張りの柵からしきりミノゾキ見してゐる少年もゐる。この雑踏をのがれて、突堤に腰を下し乍ら靜かに傍觀してゐる人もある。

晝間の交熱に今は靜かに休息をこつてゐるかと思はれる海水の、黒々さきこまでも續いてゐる遙か彼方に點々さまばたく漁火を眺める人は、何かしら遠い希望を感じずに居ないだらう。

澄之江の浦。

まここにその名の示すが如くあくまで澄みきつた水、白砂青松、淨土である。

凡そ二軒もあらうかと思はれる砂濱を踏つたひに歩いて行くさ、所々に裸の子供達が思ふ存分水に戯れてゐる。船影一つ認められない水平線をながめつゝ、渚傳ひに散歩する愉快さはけだし此の世のものさと思はれない。

この澄之江の浦に前代未聞の構事が起つたのは夏祭が近

づいたある日のことであつた。

海龜がされた!!

この驚くべきニュースが話材に窮した近郷近在の人々を驚喜せしめたことは言ふ迄もない。その丈三米にも餘る一匹の海龜が突然訪れたのである。

この驚嘆すべきニュースは村人の口から口へ、耳から耳へ潮の如くひろがつて行つた。一期の思ひ出にこの龍宮の乙姫様の御使に見えんものと押し寄せる人達の列が、来る日も、来る日も長く續いて行つた。

浦島太郎をまつる祠の傍に設けられた生洲の中にちつと動かない海龜の姿を金網の上から見下しながら、人々はおぼろげながら幻と現實との交錯を心に感じて大きく目を睨つてゐる。鉄砲彈丸も弾きかへすかと思はれる様な甲羅には苦が生え、そこそこにカキがくつついてゐる。

海龜は恰もその運命を大いなるものに委せきつたさいふ風にデツと觀念して、戯れる魚の群を尻目に動かうさもしない。生きてゐるのか死んでゐるのか、聲も立てないので一向知れないのである。

やがて濱邊のそここに飛び交ふ赤蜻蛉の群が見られる頃になつた。渚近くの水の中をほの白く彩つて、クラゲの群が海水に入る事を拒むのである。秋は何時の間にか忍びよつてきた。秋は海を渡つてくるのであらうか。彌が上に

月刊「幼児の母」に就て

— 御賛同を御利用を乞ふ —

日本幼稚園協會 倉橋惣三

三六

幼稚園が幼児への直接の保育を任務とすると共に、母の教育者、家庭教育の指導機關としての使命をもつべきものであることは、申すまでもありません。そのためにはいろいろの方法もあり、現に皆さまも、いろいろにお力を注いでられることゝ信じます。月刊「幼児の母」は、その小さき一助ともなり度く、皆さまに利用して頂き度くて、生れ出たものです。

一應は「幼児の教育」の頁内に掲載しますが、これを御覧下さつて、御注文いたゞきたいのです。すると、本會はその部数通り實費を以てお送りします。それは可愛らしい四頁の母の新聞さいつた獨立の形になつて、お手許へ参ります。そして、お手許から母達の手に渡るのです。世には、母のための読みものもいろいろありますが、幼児の母さいつた特定の意味をもつものとして、更に、それが、我子の幼稚園から配ばられるのですから、母の特別の注意をひくことを疑ひません。その上、立読みしてもすぐ読み切れる四頁です。忙しいお母さん方にも親しみ迎へて貰へるでせうと思ひます。

○月刊「幼児の母」頒布規定

- 一、毎月の注文を十日とします。
 - 二、部数と送り先きを明記して、代金と共に御注文下さい。尚「幼児の母」代金なる事を必ず御附記下さい。振替で御送金の方は着迄に比較的多くの日数を要しますからお急ぎの時は爲替の方が便利です。
 - 三、二十日以前に發送します。
 - 四、御注文は十部を一單位として、實費を左の通り申受けます。
○十部 金貳拾錢
 - 五、送料 十部まで三錢、二十部以上送料不要
 - 六、一ヶ月乃至數ヶ月分を豫約御注文を希望いたします。
 - 七、一月號は四千餘部、二月號は六千餘部の御注文を得ました、御賛同を感謝してゐます。三月號は幼稚園の必要の宣傳を中心として編輯しました。特に御利用願ひます。
- 更に甚だ立入つたことやうですが、御利用の仕組について念のため附記して置きます。(イ)幼稚園が保護者に無料配布する場合。(ロ)實費を保護者の銘々の負擔とする場合。(ハ)幼稚園内保護者會或は母の會等が費用を負擔する場合。などそれゝ御便宜次第であり得ませう。
- 「幼児の母」の第一の主旨は、現に幼稚園にある幼児の家庭教育に貢獻したいのでありますが、或は之れを以て、幼稚園外の家庭に廣く働きかけて、幼児期教育の重要性を宣布し、ひいては、正しき意味での幼稚園の宣傳にも用ゐられ得ると考へます。

幼児の 母



昭和十五年

三月

幼稚園の必要

東京女子高等師範學校長 下村壽一

子どもは、小學校に入學する前から、心と身體とを充分よく育てられてゐなければなりません。それには家庭に於ける母の行き届いた注意が肝要なことは言ふまでもありませんが、そればかりでは足りない點があります。その家庭教育を補ふのが幼稚園であつて、幼児のため最も必要なものであります。

我國の教育のことを審議する最高機關である教育審議會でも、幼稚園に關する要綱につき慎重に審議せられ、それを總

理大臣に答申せられました。私もその委員の一人であります。幼稚園の必要は、國家の教育制度の上に於て強く認められなくてはなりません。

今や此の重大な時局下にあつて、次代の國民たる幼児の保育は、國家のため一日も怠つてはなりません。私は、皆さんの大切なお子さんが、家庭と幼稚園との協力によつて、強き健康に、良き躰に、立派な國民となる基礎を、しっかりと得られることを祈つて己みません。

三月・四月

母の友

三月・四月。母の心の嬉しくも忙しく、忙しくも嬉しい月ですね。母としては此の月こそ、せつきとお正月のやうなものでせう。我子の入園入學、我子の進級卒業。子ども當人よりも母の胸が喜びに一杯いです。我子の入園を初めて迎へる心にしても、我子の保育終了を初めて祝ふ心にしても、こゝまで健かに生ひ立つた我子に禮が言ひたい程の、のぼせるような頬に、それこそ母の嬉し涙です。

その朝は、何はなくとも、お赤飯でも祝ひませうよ。その夕は、どんな忙しいお父さんにも家にゐて貰つて、我子の入園入學の祝ひなしませうよ。おぢい様、おばあ様にも、勿論是非ごいつしよに。まことに、家の内も外も明るい春ですね。

幼稚園問答

——幼稚園の教育的なう、ち——

倉橋 惣 三

「子どもを幼稚園へ入れますと、どういうふうなう、ちがございませう。」

「そりやあ、いろ／＼ありますね。」

「間食をしなくていいといふ事ですが。」

「ハ、ハ、ハ。それも一つですかね。」

「りこうになりますでせうね。」

「なりますとも。それも小才子や、小物

識りや、おとなを小さくしたやうな小ま

つちやくれでなしにね。」

「へへエ。おとなしいよい子になりませうね。」

「そうですね。但し、お人形さんのやうな活氣のない子じや有ませんよ。ちつと行儀よく座つてばかりゐるのでなく。」

「よくしつつけて頂くと申すじやございませんか。」

「しつけると言つて、しつけれでしつけれのとは違ひますよ。形の上の躰よりも

心の躰が根本ですからね。ひねくれや、

いちわるや、づるや、かげひなたや、そ

んな、いやな性質でなくなるのです。」

「ようございませう。子どもは是非

そういふ心に育てたいものでございま

す。」

「そうですね。つまり、幼稚園では、子

どもの心が快活になるのですね。明るく

朗らかに、のび／＼とね。」

「そう伺つた丈けでも、うれしくなりま

す。宅でも随分氣をつけますが、どうも

うまく参りませんが、幼稚園ではなぜで

ございませう。」

「なにしろ、幼稚園は子どもの世界です

からね。おとなの中ばかりでは、ごんな

に可愛がられても、ほん／＼に自然に、眞

實子どもらしくといふ譯にゆきませんか

らね。子どもはどうしてもおない年の仲

三月の御馳走

栄養研究所 佐々木理喜子

楽しい御馳走の日には、たゞくおすしや、混飯は、干瓢や椎茸等だけでは栄養が足りませんから、野菜、肉、魚の様な食品を取合せます。味噌汁を給食に用ひる時は煮干粉と青い野菜を必ず入れる様に致しませう。

① 海苔巻き

材料 ハム二〇瓦ほうれん草三〇瓦

卵二五瓦 人參一五瓦 油少々

海苔適宜以上で蛋白質八・七瓦

重量九八カロリ

調理法 御飯は常の様に用意し、海苔は

二枚に切り焙ります。ハムはポイルドし

たのを用ひ一分幅位に線切り、ほうれん

草は一寸位に切り油で炒め鹽、砂糖で味

付けます。人參は卸金ですり卵に混ぜ、

薄味にして炒り卵を作ります。ハムとほ

うれん草を芯にしたのと、いり卵を芯にしたのと二種作ります。

間同志がないと、一ぱいに無邪氣になれ
ませんよ。無邪氣ばかりでなく、ほんこ
うに強い心にもなれませんか。」

「へえ、さようですかね。老にのみすと、
我がまゝで、強情で、強いのですが。」

「そりや、強いより弱いの方がよいませ
んか。おとなに負けて貰つては弱くなる
のです。幼稚園では子ども同志が、力一
ぱい相手になりあつて、お互に強くく
なつてゆくのですよ。」

「喧嘩ばかり致すでございませうか。」
「喧嘩もしますね。喧嘩といふと亂暴で
すが、實は力一ぱいの真剣で、ぶつかり
あふのですね。」

「毎日頭にこぶが出来ますか。」
「ハ、ハ、ハ。心がですよ。ぶつかるとい
ふよりも相手のお蔭で力が一ぱい出せる
のですね。だから却つて、へんなかんしや
くを出したり、ぢれ怒りをしたりしませ
んよ。それどころか、子どもらしい、や
さしい心持で、互に譲りあひもし、助け
あひもします。可愛いものですよ。」
「うちの、だゞつ子もそうなりませう

か。」
「勿論……これは大きな聲を出して失
禮。」

「だゞつ子のくせにいくぢなしてす
が。」

「あしたから、幼稚園へいらつしやい
よ。」

「親戚に、大層り、こうな子があります
が。」

「是非誘つていらつしやい。そういふお
子さんこそ、幼稚園で眞の子どもにして
あげます。」

「先生方こそ御苦勞さまで。どんな祕傳
がおりなさいましたもね。」

「祕傳……ハ、ハ、ハ。祕傳も何もあり
ませんよ。来て御覧なさい。たねはお
子さん達を、楽しく、嬉しく、
われを忘れて、皆いつしよに遊ばせるば
かりですよ。わたくし達もいつしよに。」
「子どもは皆幼稚園が好きでせうね。」
「それ〜。そこがよく分つて下され
ばいいのです。子ども達の爲の幼稚園です
もの。」

② トマトライス

材料 鮭(罐詰)三〇瓦 玉葱四〇瓦
人参二〇瓦 トマトソース二〇瓦
油四瓦 青豆少々 以上で
蛋白質八・二瓦、温量九七カロ
リー

調理法 御飯を炊く時にトマトソースを
加へて水加減をします。ケチャップの様
に味が附いていませんから、砂糖、鹽等を
程よく加へます。汁がドロリとするので
火の廻りが悪い爲、途中で二回位全體を
よくまぜます。玉葱と人参は適當に切り
油で炒め軟くしてから鮭をほぐして加へ
鹽、砂糖で味付けをします。御飯が沸騰
した時に上にのせ、移す時によく混ぜま
す。ライス型で抜き上に青豆をのせます。

③ 味噌汁

材料 赤味噌三〇瓦 煮干粉三瓦
小かぶ(葉共)三〇瓦 人参二〇瓦
油揚一〇瓦 以上で蛋白質
八・一瓦、温量九七カロリー

調理法 中に入れる材料を煮て、次に味
噌を加へ、出来上つた時に煮干粉を加へ
ます。煮干粉を先にすると生臭くなりま
す。

小學校新入學の用意

堀 七 藏

いよ／＼四月一日から御入學でおめで

たう。そこでお子様喜んで小學校に通學せられるやう母親としていろいろの用意が必要であります。何はおいても子供さんが喜び勇んで學校に行くやうにせねばなりません。多くの子供達は大喜びで小學校に行くものですが、時には學校に行くことがいやになるものがあります。登校時間に一寸遅刻したので、先生から

「どうしましたか」と尋ねられただけで學校に行くことがいやになるといふこともあります。また持ち物が他とちがつてゐてお友達に笑はれたので、學校に行くことがいやになる場合もあります。それで學校には遅刻しないやう朝早く起きることを躰けねばなりません。それで夜は早く寝かせてよく安眠させねばなりません。

ん。

また學校で大便所に行かないやう、朝家が出る前に用を足させる良い習慣をつけることも大切です。お腹の工合が悪くて學校でしくじるとか、いふことがあると、きまりが悪くなり自然學校がいやになることもあります。

通學に、乗物などを使はねばならぬときはそれに慣れさせること、また通學の道を豫めおぼえさせて置くこともよいことです。途中で道草をくはないやうに躰けることも肝要です。

要するに學校が面白くて行かないでゐられないやうに躰けることが肝要です。先生に叱られるとか先生に言付けるなどおどすことなどは禁物でせう。

文部省推薦圖書から

○小さな船長さん

横山隆一著

(東京・大阪朝日新聞社發行 金九拾錢)

すぐれた繪。美しい色彩。それが皆文章と一つになつて、全巻に明るさと温かさを出されてゐます。二、三年生には自分で讀むによく、幼児にはお母さんがいつしよに、頁々の繪を見ながら、ゆつくり讀んで上げるにいい本です。著者は評判の「フクチャン」の横山氏です。

○椋鳥の夢

濱田廣介著

(富山房發行 金八拾錢)

富山房百科文庫の一つで、推薦せられたのも昨年ですが、是非おすゝめしたい本です。著者の創作の幼児向きの美しい童話が、百四十餘篇輯められてゐます。之れもお母さんが幼児に讀んで上げるにいい本です。著者が有名な童話作家であることは、更めて御紹介する迄もありません。

幼時の追憶

その五、大洲を去る

神祕

クリスマス前夜、時は十二時。

「もう、みんな、ひざまづいてお辭儀をしてゐるよ」

お爺さんが云つた、私達がかたまつて、

燃えさしを圍んで寛いでゐた時。

私達は心に描いた、藁を敷いた

牛小屋のおきなしい生きものを。

私達誰一人として、その時牛が、

お辭儀をしてゐることを怪しむ者はなかつた。

そんな美しい想像をする人は、もう

今の世には殆んど無からう。だが、私は

もし誰かゞ、クリスマス前夜、

「まあ、牛のお辭儀を見に行かう。

曾根保

私達の幼い頃よく行つた、

向ふの谷のさびしい農家へ」

と誘つたら、暗いところを一緒に行くだらうと思ふ、

本當にさうあつてほしいと思ひつゝ。

これはトマス・ハーディの「牛」と題する短詩中の一傑作である。十二月二十五日の未明、牛さいふ牛が一齊にひざまづいて、ベツレヘムの牛小屋に生れたキリストに敬意を表するさいふ、聞くだに微笑ましい傳説を詩人は幼少の頃から教へられてゐたことであらう。ハーディは建築家としての最高の教育を受けた科學者ではあつたが、やはり宗教的、神祕的情操をも多分に所有してゐたことが想像されて、彼の性格及び作品に云ひ知れぬ魅力の存するものも、或はそのためではなからうかと思はれる。

私は生來疑ひ深い男で、時には自分の性質は刑事か何かのやうな方面に役立つのではないかさへ考へたことがあつた位である。少し大きくなつて、手品なぞを見物しても、その種を見抜くことに人一倍興味をもつてゐた。今でも銀座や新宿の夜店でやつてゐる街頭手品にはわざ／＼足を止めて、十錢の研究をするこゝもある。長い間、手品の種あかしのやうなこゝに慣れて來るに、神祕さか不思議さかといふこゝが無くなつて、攝理の懼るべき力をやゝもするに軽く視るこゝになる。私がそのやうな傲慢な氣持に浸つてゐる時、科學萬能の時世にありながら、さうしても解釋の出來ない一つの想出が飛出して來て、私に警告を與へてくれる。その想出は、遠い幼い頃のものではあるが、まゝこゝに力強く、深く根を下してゐる。

大洲のお祖母さんのお供をしてお出石さんへお籠りをしたこゝがある。出石寺は大洲の町から數里八幡濱寄りにある名刹で、かなり高いこゝであらう。こゝいふのは、そこから八幡濱の海が見えるのであるから。四國の山の中に生れた私は海を見たこゝはなかつた。この時、お祖母さんに指差されて「あれが海だよ」さ教へられたが、それこそ、雲をつかむやうなもので、全く何が何だか、分らなかつた。今でも、出石寺への道中、山路、お寺なき臍氣ながら浮んで來るが、「海」は「もやもや」したもの以外には何の印象も

ない。或は何も見えなかつたのかも知れない。雲を見て海を思つたのかも知れない。この時から數ヶ月後に愈々海を見る、否海に出たのであるが、私には海は忘れられないものである。海ほごよいものは無い。私には海ほご大きなものもない。海ほご美しいものもない。海ほご怖しいものもない。私は富士山に登つたこゝがある。しかし、二度登りたいとは思はない。私を育てた瀬戸内海はさうではない。あの海でなら死んでもいいと思つたこゝさへある。人生に行きつまつて身を投げるのではない——生田春月のやうに。八歳の時に初めて知つた海、それが瀬戸内海であつたのも本當に有難いやうに思ふ。

さて、お出石の空は寒かつた。坊の二階では、たしか炬燵にあたつてゐたと思ふ。夕方が近づいた。二階から見下す廣場には消炭が廣々敷きつめられた。お祖母さんは「あの炭が眞赤におこつてくるに、その上を皆が裸足で歩くのだよ」こ仰有る。やがて信徒が蝟集し、式が始まる。私は一心に二階から見下してゐた。眞四角に敷きつめた消炭の四角に青竹を持つた逞しい僧が立つて咒文を唱へ始めた。その足許から眞赤な火が擴がつて行く。ものの三十分も経たぬうちに今迄眞黒だつた庭が火の焰に化し、立ち竝ぶ人々の顔も紅潮し、僧侶の打振る青竹も愈々急に、唱へる咒文も聲高らかに空に響き、人も火も狂せんばかり。私は息を凝らして見つ

めてゐた。お祖母さんも經文を誦して一心不亂。この世にはあり得ない光景である。するまゝ、何かしら、すべてのものが、一時に最高潮に達したと思はれた瞬間、赤裸足の僧侶が數人一列に並んで紅蓮の炎の上を何の臆するまゝころもなく、さつさみ踏んで行く。そして、すぐあまには、また少しの躊躇もなく信徒の群が口々に念佛を唱へ、勇しく進んで行く。あゝ、信仰篤きものは幸である。一大行進は燃える火の上を、地獄の火の上を、しかも悠々々渡つて行くではないか。私は幼いながらも、驚きの眼を見張つて、たゞ言葉も無く見入つてゐた。信仰！信仰！キリストも言つた、信仰は山をも移すことが出来るまゝ。私は志成らず、倒れんまゝし、希望潰えて、滅びんまゝしたまゝ、或は心驕り、神祕を、また神を愚かしくも無視せんまゝした時、この幼い頃の摩訶不思議な想出を心に浮べ、人は人の力以上のものをもつてはゐないが、一度神の御旨に叶ふ時は、人の力以上のものをも持つことがあるものだ。信じて自分を鞭打つて来た。お出石の神祕な火渡りの行事は、少くまも私にさつては、かやうな深い意義がある。

閻魔さま

柚ノ木のお寺は何ま云つたか。その閻魔堂で見た地獄極樂の繪は餘りにも露骨で、青鬼赤鬼なまぐろま云へばまここにグロで、幼い私には骨にしみるやうに怖しかつた。

家の釘拔を見てさへ青鬼を夢に見るほまであつた。甘い話ではあるが、内子まいふ村の親戚へ行つた時、近くに河原があつて、圓い清らかな小石が澤山あちこち積み上げられてゐた(恐らく村の子供が遊んだあまであらう)のを見て、私は急に嬉しくなり、いつか見た極樂の賽の河原はこゝではないかま考へたことがあつた。であるから、その後、賽の河原ま云へば必ず内子の近くの河原を想出す愚かさを繰返すのである。人の頭は、いや私の頭は狭いものである。

臥龍と城山

龜山へ行く途中に、私より四つ五つ年上の男の子の家があつた。そこではよく小さな人形芝居をして遊ばしてくれた。みんな芝居だつたか、その子が何まいふ名であつたか今は覚えてゐないが、私を可愛がつてゐてくれたやうに記憶する。肱川を股いだ龜山の向側は廣々ました然法寺河原で、白い砂原は見事である。河原の向ふに聳える松山は丁度富士山の形をしてゐるので近頃の繪葉書には「富士」ま書いてある。龜山から二三丁下るま臥龍まいふ奇岩から成る景色の良いまころがあつて、藤の名所でもある。こゝに渡場があつた。私を大洲へ連れて来た徹兄はこゝを渡つて然法寺河原をサクサクま踏んで歸つて行つたこゝであらう。臥龍から更に四五丁下るま城山がある。私は幼い頃、こゝまでは餘り來なかつた。たゞ一二度、學校から來たくらい

のものであらう。今はこの城山に中江藤樹先生の銅像がある。先年、子供を連れて宇和島へ下つた時、朝の六時にこの城山を訪れた。肱川にのぞむ、二百尺ばかりの小さい城山で、樹木も餘り無くお城も無い。今は遊園地になつてゐる。上りつめた頃、子供の羣が一匹の龜を見つけた。六寸餘りあつて、恐らく捕へるのは怖いのであらう。「お父ちゃん、龜が」云ふので、私は、「かうして捕へるのだよ」教へてやつた。想へば、私が石龜を相手に遊んだのは龜山で泳ぎを習つた七、八歳の頃のことで、それ以後絶えて無いことであるから、珍らしくもあり、懐しくもある。二人は龜を持つて入口左手の銅像の前に行つた。藤樹先生の座像は等身よりは大きいかもしれないが、見た眼には、むしろさびしい。しかし、近江聖人にはその方がふさはしいやうでもある。銅像の右にゆかりの藤がある。しばらく佇んで後、寫真をとり、右に進んで、朝霧の立ちこめた城下を見下して山を降りた。河端へ行つて急流へ今の龜を放つたころが、首を上げて二度戻つて來た。私達二人は不思議なこゝだと思つて手を延ばしたが、三度目に終に川底深く姿を消してしまつた。途々、一人は「多分あれは、お禮を云ひに歸つて來たのだらうよ」語り合つた。こゝによるゝ、あれが龜の習性かもしれない。浦島物語も案外そのやうな龜の著しい習性に何かの機縁があつたかも知れない。

頭の禿

私の大洲の生活は終つた。この頃丁度、日露戦争があつたので、新しい母の弟の一人ミかが、軍艦初瀬ミ運命を共にしたさいふやうな話を聞いたのを覚えてゐる。次に、これは最後の出來事であるが、逸するこゝの出來ないものがある。それは、或日、鐵砲を製造してゐる工場へ行つて遊んでゐた時、何かの拍子に私は萬力に挟んだ荒削りの銃身の下をくぐつた。一寸くぐつただけであつたが、そして私は少しも意識しなかつたのであつたが、その主人か飛んで來て私の頭を押へた。その手は血だらけであつた。つまり、頭の右前二寸ばかりが切れたのであつた。すぐ醫者へ連れて行かれた。幾針かが縫はれた。それは永久に、しかも残念ながら大きな禿になつたのである。先頃、何かの拍子に文部次官やら、誰やらが、髪を切つたりして大いに何かの宣傳をしたらしいが、私は容易にそれに賛成しなかつた。そこには十分な理由があつたからである。しかし、この禿が腕白時代の名譽の負傷でないのもいささか物足りない。

大洲を去る

十二月の頃であらう。何も知らない私は或る日、學校から歸るミ横林の母ミ徹兄が迎へに來て、川舟に乗せられた。何處へ行くのかも知らない。一年半前に着いた同じ處から、

又出て行くのである。さらば、柚ノ木の祖母よ、父よ、母よ。さらば、龜山よ、臥龍よ。私達親子三人は肱川を下りに下つて夕方長濱に著いた。愈々長濱に着くといふ頃には川幅が廣く、灰色に煙つた川の面が遠く何處までも續いてゐた。「もうこの邊は海だ」と教へられたものの、それでも海の概念は得られなかつた。岸には船の数が、殆んど数へきれない程であつた。舟から上つて、安田旅館さかいふ宿屋で夕食をすませ、夜中に、ねむい眼をこすり、こすりギイギイ櫓の音をきゝ乍ら、寒い夜風にふかれて、港の外に何か騒がしく足ぶみでもしてゐるやうな眞黒な船に近づいて行つた。宿屋の番頭が提灯をもつて送つてきた。親戚の人か誰かも來た。海の香もかいだ。汽船の油の香、ベッキの香も初めて知つた。すべてが新しい世界だつた。乗船するさ、そこには宇和島から乗つて來た迪兄がゐた。不思議な氣がしたが、うまく打合せがしてあつたのであらう。ガラガラガラ、眞夜中の海に碇を巻く音、呼び子の音、やがてピストンの音、スクリュウの音、そして、さよならの汽笛が、長濱の港外に響いて、船は東を指して進んで行く。船は大阪へ！そして吾々親子四人は何處へ！

馬車屋

「そこんどこ、あいてるんぢやねえか」

道端の男が聲をかけた。

「いや、あいてねえ」馬車屋は答へた、

鞭ふりふり、車を速めて。

「チューンや、おめえはあの世へ行つたつて人は云ふが、

ちやんとおいらの側に一緒にゐらあ、な」

かう云つて、自分の隣にあげてある

席の方へ眼をやつた。

すると、乗つてゐる連中は小聲で、

「何處へ行くにも、おかみさんが一緒に

あそこに坐つてゐたが、空っぽになつてから

もう、するぶん久しいもんだ」

ガラゴロ、ガラゴロ馬車は走つた、

シドウェル教會の脇を通つて

イークスン砦も見えなくなつた。

日もとつぷり暮れてしまつた。

——トマス・ハーティ——

ハイディ

(第二十三回)

津田芳雄譯

二十一、おちいさんの家で

お日様は山の上ののぼりはじめた所で、一日の最初の金いろの光りを小屋や谷間にふりそそいでゐた。おちいさんはいつもの通り、朝のひきまきを、静かな恭々しい氣持で小屋の前に立つて、朝霧が次第に霽れて、峯や谷がほのぼの姿をあらはし、又一日が明けて行くのを見成つてゐた。

見る見る頭の上のうすい朝雲が明らかに來たと思ふと、お日様がその雲を破つてキラキラと輝き出し、岩も森も山々も、一面にその金いろの光りを浴びた。

おちいさんは小屋に戻り、靜かに梯子をのぼつて見た。クララが今日を覺まし、丸窓から射し込

んでお床の上を跳ねまはつてゐるまはゆい日の光りを、びつくりして眺めてゐるまはゆいだつた。はじめは自分か何を見てゐるのか、何處にゐるのか、ちよつと見當がつかなかつた。やがてそばに眠つてゐるハイディが目に入り、今は又、よく眠れたか、疲れはよく休まつたか訊ねてくれるおちいさんの元氣な聲が耳に入つて來た。クララは疲れなんかすつかり直つて、朝まで一と寝入りだつた。答へるまは、おちいさんは満足して、早速細々ま氣を配りながら、やさしく世話を焼きはじめた。まるで今まですつと、病氣の子供の世話ばかり本職にして來た人のやうに行き届いてゐた。

ハイディも目を覺まし、クララがもう著換へを

すましておぢいさんに抱かれて下へ降りようさしてゐるのを見て、びつくりした。跳び起きて、稲妻のやうな早さで支度をし、梯子を駆け降りて外へ出て見るさ、ここにも又びつくりするこゝが待ちかまへてゐた。おぢいさんは昨夜二人が寝てしまつてから、大仕事をしたのだつた。クララの寢椅子が小屋の入口の戸につつかへて這入れなかつたので、小屋の横の板を二枚はづして、自由に這入り出来るやうにし、又いつでも付けはづしの利くやうに、その板はゆるくしておいたのである。かうして今、クララを寢椅子で小屋の前に連れ出し、日向ぼつこをさせておいて、自分は山羊の世話をしに行つた。ハイデイは急いでクララの傍へ駆けて行つた。

さわやかな朝風が子供達の頬をなぶり、一吹き毎に、かぐはしい椋の葉つばのほひを運んで來た。クララはうれしさうにそれを胸一ぱいに吸ひ込んで、これまでにないせいせいした氣持で寢椅子によりかかつてゐた。こんなひろびろとした旧舎で、こんなに朝早く、こんなにひいやりと心地よい澄んだ山の朝風に吹かれたのは、生まれて初めてなので、吸ふ一息一息が、うれしくつてたま

らないのだつた。輝かしい日の光りは、山の上では、暑すぎず蒸しすぎず、手や草の上に、ほんのりさ暖くただよつてゐた。山の上がこれほごまでに楽しいさころださは、クララは思ひもかけなかつた。

「ねえハイデイちゃん、ほんごにいつまでも、ここであんたさ一緒にゐられるのだつたら、いいわねえ」

クララはうれしさうに叫び、寢椅子の中であちこちさ向きを變へては、なほも日の光りや山の氣を吸ひ込むのだつた。

「ね、わたしの云つたさほりでせう？おぢいさんさ、このお山で暮らすのが、世界中で一等美しいでせう？」

ハイデイもうれしさうに答へた。

丁度この時、おぢいさんが山羊小舎から雪の様に眞白な泡立つお乳の這入つた二つの小さなお椀を持つて來た——一つはクララに、一つはハイデイにさ。

「これを飲まれるさ、お嬢さんもぐんご丈夫になられますぞ。『小さい白鳥』の乳です。さあ、お嬢さんが丈夫になられるやうに！ひごつ、飲んでご

らんなされ」

クララは今までに山羊のお乳は飲んだことがないので、ちよつともぢもぢとして、口をつける前にほひをかいで見たりしてゐるが、ハイディか如何にもおいしさに、息もつかずに飲み干すのを見て、すぐ眞似を試みるが、まるでお砂糖と肉桂が這入つてゐるのかと思はれるくらゐおいしくて、一滴も残さずに飲んでしまつた。

「あしたは二杯にしませうかな」

おぢいさんはそれを見て、満足さうに云つた。そこへペーテルが山羊をつれてやつて来た。ハイディがいつものやうに山羊たちに取りかこまれてゐる間に、おぢいさんはペーテルに話があるさう云つて少しわきへ呼んだ。山幸たちが喜んではいしやきまはるので、そばではやかましくして、話が聞えないのである。

「いいかね、今日からは、『小さい白鳥』は好きなところへ行かせてやつてくれ。あいつは不思議に、生まれながらにして、よい食べ物のある所を嗅ぎ分ける力を持つてゐる。少々高いところに登つて行つても、ついて行つてやつてくれ。決して引き戻すではないぞ。ほかの山羊さもがついて行つて

も、大丈夫ぢや。あいつはお前などより、よく心得て居るからな。實は、出来るだけ上等の乳がほしいのぢや。——なんぢや、そんな嗜み付きさうな顔をせんでもよい。誰もお前の邪魔はしはせん。さあ、わしの云つたことを忘れぬやうにして、早く行つておいで」

ペーテルはおぢいさんの吩咐けには、いつも即座に従ふことになつてゐるので、早速山羊たちを連れて出掛けたが、内心不服のしるしに、ぐいさ首をまはして、眼をぎよろぎよろむいて見せた。山羊たちに押されてついて来たハイディを見るに、急にうれしさに呼びかけた。

「けふは一緒に来ておくれよ。僕は『小さい白鳥』について行かなくちやならないんだから」

「駄目なのよ」

ハイディは山羊たちに取りまかれながら、呼びかへした。

「これからも、さうつゝ行かれないのよ——クララの泊つてゐる間ぢうさうつゝ。でも、おぢいさんが、いつか二人とも連れてつてやるつて仰しやつたわ」

ハイディはやつゝ山羊の圍みを逃げ出してクラ

ラのミところへ走つて歸つた。ペーテルは両手の拳骨を固め、寢椅子にねてゐる病人に向つて、にくらしさうに振りまはした。それから急に、おぢいさんが見てるはしなかつたかミこわくなり、そんなこゝに心を使ふのがいやさに、下から見えないミところまで、息もつかずに一散に駈けのぼつた。

クララミハイディは、あんまりいろんな計畫を立てたので、何處から手を付けていいかわからない位だつた。ハイディは、まづ第一に、お約束だからおばあさまにお手紙を書かうミ云つた。おばあさまは、クララを山の上にあづけて自分はラガツ温泉にゐても、まだほんたうに山の空気がクララの體に合ふかさうかが氣懸りだつたので、何か事があればすぐにも出かけられるやうに、毎日お手紙をよこすこゝを子供達に約束させたのである。

「ぢや、おうちへ這入つて書くの?」

クララはお手紙には賛成だけれども、あんまり外が氣持がいいので、こゝを動くのがいやだつた。ハイディはすぐに走つて行つて、學校の本だの、書きもの道具だの、自分の小さな腰掛けだのを持ち出して来て、讀本ミ練習帳をクララの膝の上に

おいて、書きもの臺を作つてやり、自分は腰掛にかけてベンチを机にし、かうして二人はおばあさまにお手紙を書きはじめた。けれどもクララは、一區切り書く毎にペンをおいて、あたりを眺めまはした。あんまり景色がよくて、お手紙なご長々ミ書いてゐられないのである。風はおさまり、今ではかすかに頬を撫で、輕やかに樅の枝を鳴らしてゐるだけだつた。小さな羽蟲がまはりの澄んだ究氣の中を低くうなりながら飛びまはり、遠くの日溜りの廣い牧場は、ひつそりミ静まり返つてゐた。はるか頭上高くには黙々ミして峯々が聳え、目の下一面には、廣々ミした谷間がやすらかに横たはつてゐた。物音さいへば、ほんの時たま牧童の呼び聲がかすかにひびいて来るばかりで、それが又やはらかく岩にこだまするのだつた。子供達は無心に書きつづけ、いつおひるになつたかも知らなかつたが、やがておぢいさんが、湯氣の立つお乳を持つて来てくれた。お嬢さんは陽のある間は少しでも外にゐなざる方がよいさいふ、おぢいさんの意見だつたので、かうして昨日の通り、おひるは外でいただいた。それがすむミ、ハイディはクララを樅の木の下に押しして行つた。その木蔭

で、お互ひにお別れ以來のお話をし合はうさいふのである。ゼーゼマン家では、だいたいこしては、べつに變つたこともなかつたけれども、ハイディにはその一人一人がお馴染みなので、細かいことになると、話はいくらでも盡きないのだつた。

お話に實が入つて子供達の聲が高くなれば、それに仲間入りするやうに、頭の上の小鳥たちは一層囀り立てるのだつた。子供達はますますうれしがり、時の經つのも忘れてゐるに、ペーテルが歸つて來たので、夕方が突然やつて來たやうな氣がした。ペーテルはまだふくれてゐて、一緒に仲間に入つてお話をぎして行きさうな様子もないので、ハイディは

「さようなら、ペーテル」

と聲をかけるに、クララも親しげに

「ペーテルちゃん、さようなら」

と呼びかけたけれど、ペーテルは知らん顔をして、むつつり山羊たちを追ひ立てて歸つて行つた。

クララは、おぢいさんが『小さい白鳥のお乳をしほりに向ふへ連れて行くのを見るに、早くあの香ばしいお乳が飲みたくなつて、待ち遠しさうに

云つた。

「へんねえ、ハイディ」クララは自分でもびつくりしてゐた。「あたし、ずうつと思ひ出して見ても、今まで何か食べたのは、食べなきやならないからで、何を食べても、肝油みたいな味がして、何にも食べたなり飲んだりしなくてもいいのだつたら、そんなにいいかしらに、いつも思つたわ。それがさうでせう、今ぢや、おぢいさんが早くお乳を持つて來て下さればいいのに、待ち遠しがつてるのよ」

「ええ、わたしわかるわ」

ハイディは自分がフランクフルトで、幾日も何を食べてものごにつまりさうだつたことを思ひ出して答へた。だがクララには、さうしてもそのわけがわからなかつた。實は不思議でもなんでもなく、いままではクララは一度だつてこんなにいちんぢう外で、ましてこんな氣分のせいぜいする高い山の上で、暮らしたことがないからなのであるが、おぢいさんがやつと待ちに待つた夕ごはんのお乳を持つて來てくれるに、クララは一息に飲んでしまひ、ハイディよりも早く「お代り」云つてお椀を差し出した。おぢいさんは二人のお椀

を持つて中に入り、今度なみなみさ注いで持つて出て来た時には、おまけの御馳走を持つてゐた。今日、村の羊飼ひの家へ行つた時、丁度おいしさうなバタが出来てゐて、大きな塊り一つ買つて来たので、早速それを厚くパンにつけてやつたのである。クララミハイディが如何にも子供らしくお腹を空かしておいしさうに食べるのを、うれしさうにちつミ立つて見成つてゐた。

その夜クララはお床に這入つてから、お星様を眺めようとしたが、ぢきに眼がふさがつて来て、ハイディミ殆ど一緒に眠つてしまひ、朝までぐつすりミ寝入つた。こんなこゝは全く今までにないことだつた。

このやうにして、その次ぎの日も次ぎの日も、楽しく過ぎて行つたが、三日目に、子供達のびつくりするものが届いた。二人の頑丈な人夫が、一つづつ寢臺をかつぎ、澤山の敷蒲團ミ、二枚の眞白い掛蒲團を持つて、山をのぼつて来たのである。それにはおばあさまからのお手紙が添へてあつた。これはクララミハイディにあげます。ハイディはこれからずつミほんもののベッドに寝られるやう、冬デルフリの村のおうちへ行く時にも、一

つだけ山の小屋にのこしておいて、もう一つのは持つていらつしやい。さうすればクララが又山へお邪魔しても、泊めていただけでせう。いつも長いお手紙をありがたう。これからもつづけて毎日書いて下さい。わたしはそれを見て、二人の様子を思ひ描いてゐます。ミ書いてあつた。

おぢいさんは屋根部屋へのぼつて行つて、うづ高い枯草を取りのけ、人夫を助けて二つの寢臺をかつぎ込んだ。子供達がお日様やお星様の光りをごんごんに楽しみにしてゐるかをよく知つてゐるので、やはり丸窓から外が見えるやうに、二つの寢臺はくつつつけて竝べた。

ラガツ温泉に滞在中のおばあさまは、毎日山の子供達から元氣なおたよりが届くので、大よろこびだつた。クララは日が経てば経つほど一日一日が面白くてたまらなく、おぢいさんの親切な心づくしや、フランクフルトにゐた時よりも、もつミもつミ愉快な子になつてゐるハイディの、元氣な面白のおもてなしには、お禮の云ひやうもなく、毎朝目が覺めてまづ思ふことはいへば、「ああ、まだここにゐたんだわ。まあうれしい」ミいふことだミ書いてゐた。毎日このやうな安心なおたよりが

づくので、おばあさまは、この分ではなにも険しい山道を馬に乗つてのぼつて行かなくても大丈夫さ思ひ、子供達のまごころに行くのは、少し延ばさうと思つた。

おぢいさんはこの小さな病人をこささらいぢらしく思ふらしく、毎日何かしら一つづつ、病人をよくする工夫をこらしてゐた。この頃では、毎日おひるから山へのぼつて、奥へ奥へ分け入つては、よいにほひのする葉つばをさつさり取つて來た。それはカーネーションさかじやすう草さのまじつたやうな、いい香りで、遠くまでよく匂つた。それを山羊小舎に吊るしておくさ、山羊たちが歸つて來てにほひを嗅ぎ當て、夢中になつて飛び付かうさするのだが、おぢいさんがわざわざ山奥深く分け入つてこの得難い葉を取つて來たのは、むざむざささの山羊にでも食べさせる爲めではなく、特別上等のお乳を出してもらふために、『小さい白鳥』ひさりに食べさせようが爲だつたのである。効果靨面、『白鳥』はめきめきま眼の光りからして違つて來て、ますます愉しげに頭を打ち振るやうになつた。

クララが山に來て、もう三週間になつた。この

四五日來、おぢいさんは毎朝抱き起して下へつれて來るさ、

「さうですか、お嬢さん、ちよつこでも立てるか、ためして見ませんか」

さ云ひ云ひした。クララはおぢいさんの心づかひに對して、ただおぢいさんを悦ばせようとして立つて見るのだつたが、足が地についたかと思ふさ、もう痛いさ云つておぢいさんにしがみ付かねばならなかつた。それでもおぢいさんは毎日少しづつ長く立たせて見るのだつた。

この夏は、山は近年にないお天氣つづきで、毎日空には一點の雲もなく、お日様は美しく照り輝いた。花はいい匂ひをみなぎらせて咲き亂れ、さちらを向いても、華やかな色で眼を樂しませてくれた。夕方になれば、夕映えが峯々や大雪原を眞赤に染め、そして一等おしまひに、お日様が金いろの焔の中に沈む。ハイディは高い所へ行かなければ見られないこの美しいさまさまの色のお話を、幾度クララにしてあげても、決して飽きなかつた。ある夕方、木の下に坐つて、金いろに光る半日草がかたまつて咲いてゐる横には、葉つばまで青く見えるほぎの青い風鈴草がさつさり咲き

みだれ、いいにほひのするまび色の花が一こ叢一面に匂つてゐる山の斜面のこみや、夕陽の神々しい光りのこみを夢中になつて話してゐるま、ハイディはそれがもう一度見たくつて矢も楯もたまりなくなり、いきなり物置きにゐるおぢいさんのまころへ駆け出して行つて、這入る間ももぎかしく叫び立てた。

「おぢいさん、あした山羊ま一緒に、お山へ連れてつて頂戴よう。今お山の上は、まつてもきれいでしょ？」

「よしよし。その代り、わしからも、お嬢さんに一つ註文があるぞ。お嬢さんに、今晚もう一ぺん、立つけいこをしてもらひたいのぢや」

ハイディはこのよいしらせを持つてクララのまころへ駆けもぎつた。クララは明日の山のぼりがこの上もなく楽しみだつたので、すぐにおぢいさんのいふまほり、一生懸命に立つけいこをして見る約束をした。ハイディはうれしくつてたまらず、ペーテルを見付けるま、はしやいで呼びかけた。

「ペーテル、ペーテル、わたしたちね、あしたみんなで、あんたま一緒にお山へ行つて、いちんちちう遊ぶのよ」

ペーテルは小熊のやうにふくれ上り、何かぶつぶつ返事をするま、罪もない「ひわをひつづばたかうま鞭をふり上げた。「ひわ」はびつくりして、それを見るや、大いそぎで「ゆき」を飛び越して逃げて行つたので、鞭はむなしく空を打つただけだつた。

その夜、クララまハイディは、明日の楽しみで胸をふくらませながら、立派なお寢床に入つた。明日の相談が山ほまあるので、今夜は夜つびで眠らないでお話しようま約束したのだけれど、二人まも、ふわふわま氣持のよい枕に頭をくつつけたかま思ふま、ぢきに話聲がまだえ、クララはいちめんに釣鐘の形をした青い花が咲きみだれて、まるで空のやうな色をした廣い野原の夢を、ハイディは高い空から「おいで、おいで、おいで」ま呼んでゐる大きな鳥の夢を見た。

保育實習科新卒業者

東京女子高等師範學校保育實習科は昭和十五年三月、左の二十五名の新卒業者を保育界に送り出さうとしてゐます。皆それ〴〵適當な働き場所を得て斯界の爲熱心にその職に従事し度い希望に燃えてゐます。

氏名	出身校	生年月日	氏名	出身校	生年月日
伊藤 逸子	廣島縣立三原高等女學校	大正十一年七月十二日	津村滿喜子	東京 惠泉女學園	大正十一年三月十二日
大瀧 照子	茨城縣立下館高等女學校	大正十年十月十八日	辻 繁	東京 櫻蔭高等女學校	大正十年五月三十一日
桂 幾子	東京女子高等師範學校附屬高等女學校	大正十年八月三日	手賀 すみ	群馬縣立前橋高等女學校	大正十年六月二十三日
川口 幸子	長野縣立長野高等女學校	大正十一年九月二十七日	永田 ふみ	東京 白百合高等女學校	大正十年十二月十一日
久保 紀子	愛媛縣立松山高等女學校	大正十一年一月十五日	廣瀨 たみ	東京千代田高等女學校	大正十一年三月二日
小橋 爽子	岡山縣 山陽高等女學校	大正十年十二月十五日	水原富彌代	和歌山縣立和歌山高等女學校	大正十一年一月二日
清水 明	宮城縣立第一高等女學校	大正十年十月十一日	宮原 恭子	和歌山縣立和歌山高等女學校	大正十一年一月二十三日
島田 文子	靜岡縣立沼津高等女學校	大正十一年二月二十八日	森 葉津子	大阪府立夕陽丘高等女學校	大正十年九月五日
白石 覺子	東京府立第五高等女學校	大正十年五月三十日	山本美代子	神奈川縣立橫濱第一高等女學校	大正十年十二月二十八日
杉 園子	東京女子高等師範學校附屬高等女學校	大正十年六月二十六日	吉田 トミ	日本女子大學校附屬高等女學校	大正十年十二月五日
杉江和歌子	茨城縣立水戸高等女學校	大正十二年一月十七日	李 順 伊	朝鮮京畿高等女學校	大正六年三月十二日
相馬 誠子	名古屋市立第一高等女學校	大正十一年十一月廿五日	林 氏 秀英	臺灣臺中州立彰化高等女學校	大正十二年一月十日
			若宮 梅子	東京女子高等師範學校附屬高等女學校	大正十一年一月十一日

日本幼稚園協會編輯 幼兒の教育

會長 東京女子高等師範學校長 下村 壽一
 主幹 東京女子高等師範學校教授 倉橋 惣三
 附屬幼稚園主事

日本幼稚園協會規則

- 第一條 本會ハ幼児教育ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス
- 第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園ニ關係アルモノ又ハ幼児教育ニ篤志ナルモノトス
- 第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾五錢ヲ齎出スヘシ、會員ハ無料ニテ本會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ケ
- 第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒテ客員トナスコトアルヘシ
- 第六條 幼稚園ニ關係アルモノニシテ本會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラル、モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアルヘシ
- 第七條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得
- 第八條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ
 一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査
 一、幼兒教育ニ關スル講演會及ヒ講習

- 會ノ開催
- 一、雜誌發行(毎月一回)
- 一、幼兒教育ニ關スル圖書刊行
- 一、保姆就職及招聘ニ關スル仲介
- 一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メタル事件
- 第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク
 會長 一名 會務ヲ總理ス
 主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務ヲ掌理ス
 幹事 若干名 會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌ス
 評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ會長ノ諮詢ニ應ス
- 第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス
- 第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス
- 第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ
- 第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變更スルコトヲ得ス

價定

一ヶ月分	金參拾五錢	特等面一頁二等面一頁
半年分	金貳圓拾錢	金貳圓拾圓一頁拾圓
一年分	金四圓拾錢	金拾五圓一頁御斷り
拾貳冊送	金四圓拾錢	神田區駿河臺ノ三品田廣告社に御申込下さい

(外國行郵税は一部金拾貳錢の割にて御拂下下さい)
 昭和十五年二月二十八日印刷納本
 昭和十五年三月一日發行
 幼兒の教育 第四十卷 第三號

不許複製 禁止轉載

編輯者 東京女子高等師範學校附屬幼稚園內 倉橋 惣三
 發行所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 柴山 則常
 印刷所 東京市本郷區駒込林町百七十二番地 杏林 舎

發行所 日本幼稚園協會 振替口座東京一七二六六番

注 文 規 定

- 一、本誌御注文の方は凡て前金(郵税共)で願ひます。(郵券代用の場合には焼て割増)
- 一、御送金の場合にはなるべく振替貯金で振替口座東京一七二六六番日本幼稚園協會宛に願ひます。
- 一、送金の節には第何巻第何月號より第何月號迄と明記せられたし。
- 一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきが御申越を願ひます。
- 一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜誌の帯封に「前金切」の印章を押捺いたしますから其節は早速御送金を願ひます。
- 一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發送を願ひます。

嬉しい手技材料並に表簿類

◇繪馬額——厚紙製の繪馬、クレオン・貼紙等でお子達自身が意匠するもの

一〇枚 金三十錢

◇菱形——赤・白・草三色の菱餅型の厚紙臺紙にお雛様を折つて貼る

一〇枚 金三十五錢

◇屏風形——雛祭やお人形遊用金屏風、之に貼紙の櫻その他で意匠するもの

一〇枚 金三十五錢

◇出席カード——武井武雄先生揮毫の美しいカード、毎日の出席の貼紙で美しいカードになる仕組、家庭通信欄、幼児發育標準表を添ふ

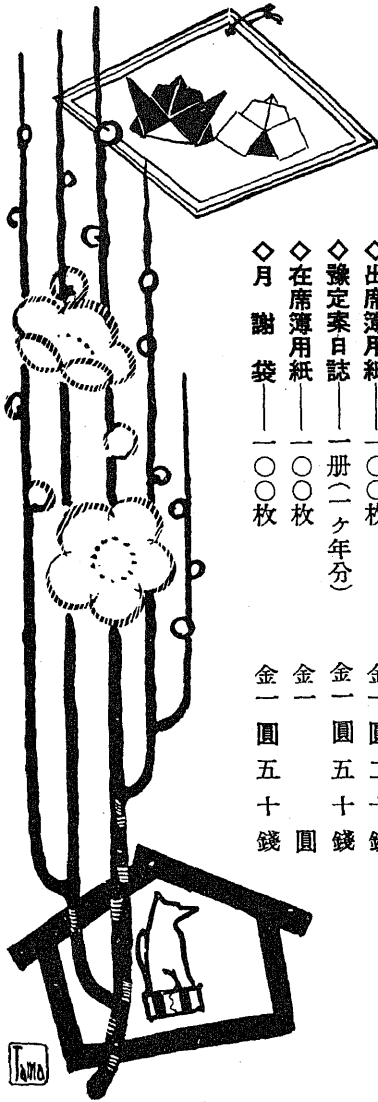
十二枚一組(二人一ヶ年分) 金十五錢

◇出席簿用紙——一〇〇枚 金一圓二十錢

◇豫定案日誌——一冊(二ヶ年分) 金一圓五十錢

◇在席簿用紙——一〇〇枚 金一圓

◇月謝袋——一〇〇枚 金一圓五十錢



T&MO

所行發

食館ルベール 社會式株

番二六六三(33)話電・二町保神・田神・京東 社本
番七二八三 番八三九一(24)話電・五町後備・區東・阪大 店支

昭和四年五月十五日第三種郵便物認可
(毎月一回) 昭和十五年二月二十九日印刷納本

昭和十五年二月二十九日印刷納本

定價參拾五錢